

取扱説明書

1輪管理機

YK

YK451SK

YK651SK

YANMAR

製品の改造禁止

当製品が使用している電子機器の改造や、製品の使用目的以外の作業や改造はしないでください。改造や目的外の使用をした場合、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また使用目的以外の作業や改造は保証の対象になりませんので、ご注意ください。

安全保障貿易管理規制について

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供する場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連規制を受ける場合があります。

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジン番号には、アフターサービスをお受けになるときに必要な情報が記載されています。機体銘板は、フレーム右側面（図1）に貼り付けられています。エンジン番号は、機体前方のエンジンクランクケース（図2）に打刻されています。

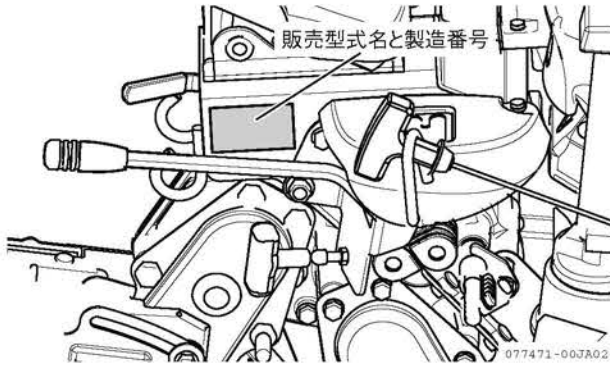


図1 機体銘板

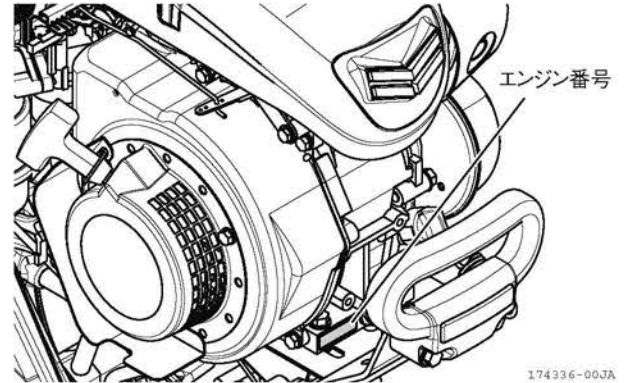


図2 エンジン番号

販売型式名、製造番号などを記入してください

1 輪管理機の製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名：	アタッチメント型式名および製造番号：
区分：	
製造番号：	
エンジン型式：	
エンジン番号：	

※ご購入の1輪管理機によっては、該当しない項目もあります。

※アフターサービス、保証については、71ページをご参照ください。

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ヤンマー1輪管理機をお買い上げいただきありがとうございました。この取扱説明書は、1輪管理機の取扱方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡したりするときは、必ずこの取扱説明書および、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」を本製品と共にお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、またはJAにご注文ください。
- 安全に対する項目については、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」に記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご相談ください。
- 本書1ページの記入欄に1輪管理機の製造番号、エンジンの番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。
- 本取扱説明書に記載されている部品番号は変更されることがあります。部品、アタッチメント、オプションをご注文される際は本機の販売型式名、製造番号、エンジン番号をお買い上げいただいた特販店、またはJAへお伝えください。

この1輪管理機は、路上（公道）走行できません。

この1輪管理機は、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。ほ場まで移動される場合は、トラック等に載せて運搬してください。

この1輪管理機は、日本国内での使用を想定してます。

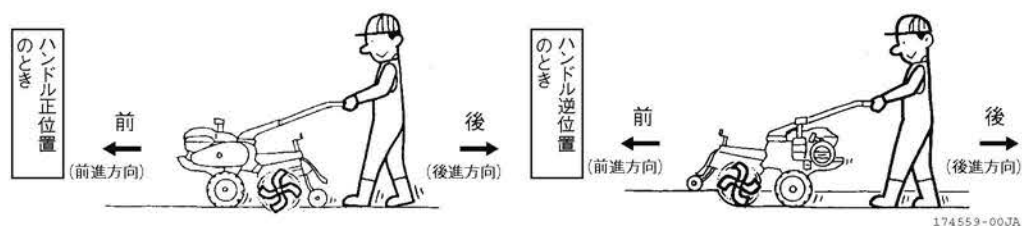
この1輪管理機は、日本国内のみでの使用を想定しており、日本国外での使用は想定しておりません。日本国外で使用した場合や、海外へ輸出した場合は、当社の品質保証の適用範囲外となります。

説明記号の見かた

- ▲ 危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
- ▲ 警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。
- ▲ 注意** その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。
- 【重要】** 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
- 【参考】** 作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

方向について

本機の前後は、下図のように作業員から見た方向で表します。
本文中の、前進・後進についても、作業員から見た方向で表します。



本製品の使用目的について

本製品は、ほ場の耕うん、培土、除草などの管理作業用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などはしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

本製品の使用条件について

本製品は、ほ場の耕うん、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機として設計、製造されています。

表1の条件で使用するにより本来の性能を発揮します。

表1 使用条件

温度	- 5 °C ~ 40 °C
高度	1500 m 以下
傾斜度	5 度以下

型式と仕様について





本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

表2 型式と仕様

型式	仕様	馬力 (kW(ps))	走行部		ロータリー部			備考
			変速段数	車輪	変速段数	ロータリー	耕幅 (mm)	
YK451 SK	S (E)	3.0 (4.2)	前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転2段 逆転2段	ストレートセンター	170 ~ 355	E:セルスタート式
	X		前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転2段 逆転2段	クロスセンター	300	
YK651 SK	S (E)	4.6 (6.3)	前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転2段 逆転2段	ストレートセンター	170 ~ 355	E:セルスタート式
	X		前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転2段 逆転2段	クロスセンター	300	
	XNJ		前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転2段 逆転2段	クロスセンター	—	爪・爪軸無し
	AS		前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪)	正転2段 逆転2段	ストレートセンター	170 ~ 355	
	NR		前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転2段 逆転2段	ロータリー無し	—	
	VS		前進4段 後進2段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転2段 逆転2段	ストレートセンター	170 ~ 355	幅可変ハンドル
	CS		前進4段 後進2段	クローラ	正転2段 逆転2段	ストレートセンター	170 ~ 355	
CX	前進4段 後進2段	クローラ	正転2段 逆転2段	クロスセンター	300			

運転操作のシンボルマーク

1 輪管理機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークを1 輪管理機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

	エンジン停止		ガソリン燃料		エンジン始動
	チョーク				

目次

総目次

機体銘板とエンジン番号 1

販売型式名、製造番号などを記入してください... 1

はじめに 2

1章 必ずお読みください..... 10

安全銘板..... 10
安全銘板の貼り付け位置..... 10
安全銘板の手入れについて..... 11

2章 運転のしかた..... 12

各部のはたらきと使いかた..... 12
運転操作部..... 12
本機周辺部..... 14
エンジン部..... 17
運転前の点検..... 19
点検のしかた..... 20
エンジンの始動と停止..... 21
始動のしかた..... 21
停止のしかた..... 23
運転操作..... 24
発進のしかた..... 24
変速のしかた..... 25
旋回のしかた..... 26
駐車 of しかた..... 27
停車のしかた..... 27
スタンドの操作のしかた..... 28

3章 作業のしかた..... 30

作業前の準備..... 30
ハンドル高さの調節のしかた..... 30
ハンドルターン（回動）のしかた..... 30
走行変速レバーの回動のしかた..... 31
ハンドル幅の調節のしかた
（VS仕様のみ）..... 31
ロータリーカバーの調整のしかた..... 32
耕深の調整のしかた..... 34
車輪幅の調節のしかた
（YK651SK,AS、YK651SK,CS、
YK651SK,CXを除く）..... 35
クローラ取付角度の調整のしかた
（CS、CX仕様のみ）..... 36
作業について..... 37
ほ場での作業のしかた..... 37
爪・爪軸のセットのしかた..... 37

4章 お手入れのしかた..... 43

作業後の手入れについて..... 43
作業後の手入れのしかた..... 43

各部の注油箇所..... 44
点検・整備のしかた..... 45
定期点検・整備の時期について..... 46
定期点検一覧表..... 46
燃料の点検・補給・排出のしかた..... 47
オイルの点検・交換のしかた..... 49
エアクリーナーの洗浄のしかた..... 51
燃料コシ器エレメントの掃除のしかた..... 52
主クラッチレバーの点検・調整のしかた..... 52
ロータリークラッチレバーの
点検・調整のしかた..... 53
ハンドル上下レバーの
点検・調節のしかた..... 54
ハンドルの調整のしかた..... 54
副変速レバーの調整のしかた..... 55
クローラの調整のしかた..... 55
緊急停止ワイヤーの確認・調整のしかた..... 56
増締めするところ..... 56
耕うん爪の点検・交換のしかた..... 57
点火プラグの点検・掃除・交換のしかた..... 58
燃料パイプ・電気配線の点検のしかた..... 59
バッテリーの長期保管時の手入れ
（E仕様）..... 60
バッテリーの点検（E仕様）..... 60
不調診断のしかた..... 63

5章 保管のしかた 65

保管するときは..... 65
特に長期保管するときは（1カ月以上）..... 65
保管のしかた..... 65

6章 輸送のしかた 66

トラックへの積み・降ろしのしかた..... 66

7章 仕様 68

主要諸元..... 68

8章 廃棄物の処理について 70

廃棄をするときは..... 70
1 輪管理機の廃棄..... 70
廃油の処理..... 70
ホース類の処理..... 70
リチウムイオンバッテリーの処理
（E仕様）..... 70

9章 サービスと保証について 71

保証書は大切に保管してください..... 71
アフターサービスをお受けになるときは..... 71

10章	索引	72
11章	部品リスト (部品早見表)	73
	主要消耗部品	73
12章	用語解説	74

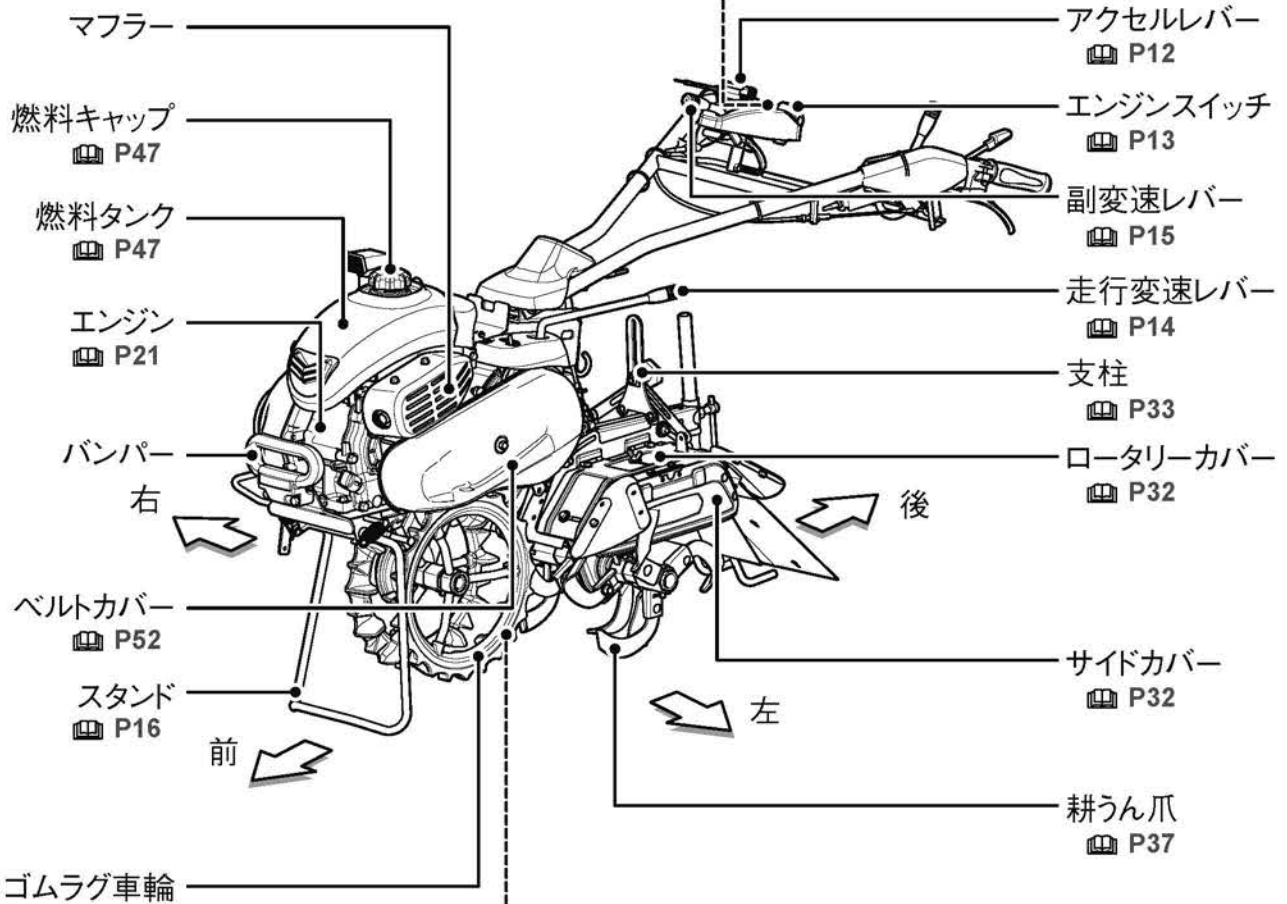
イラスト目次

外観

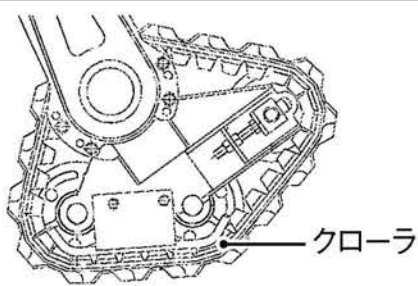
※ イラストは YK651SK をモデルにしています。

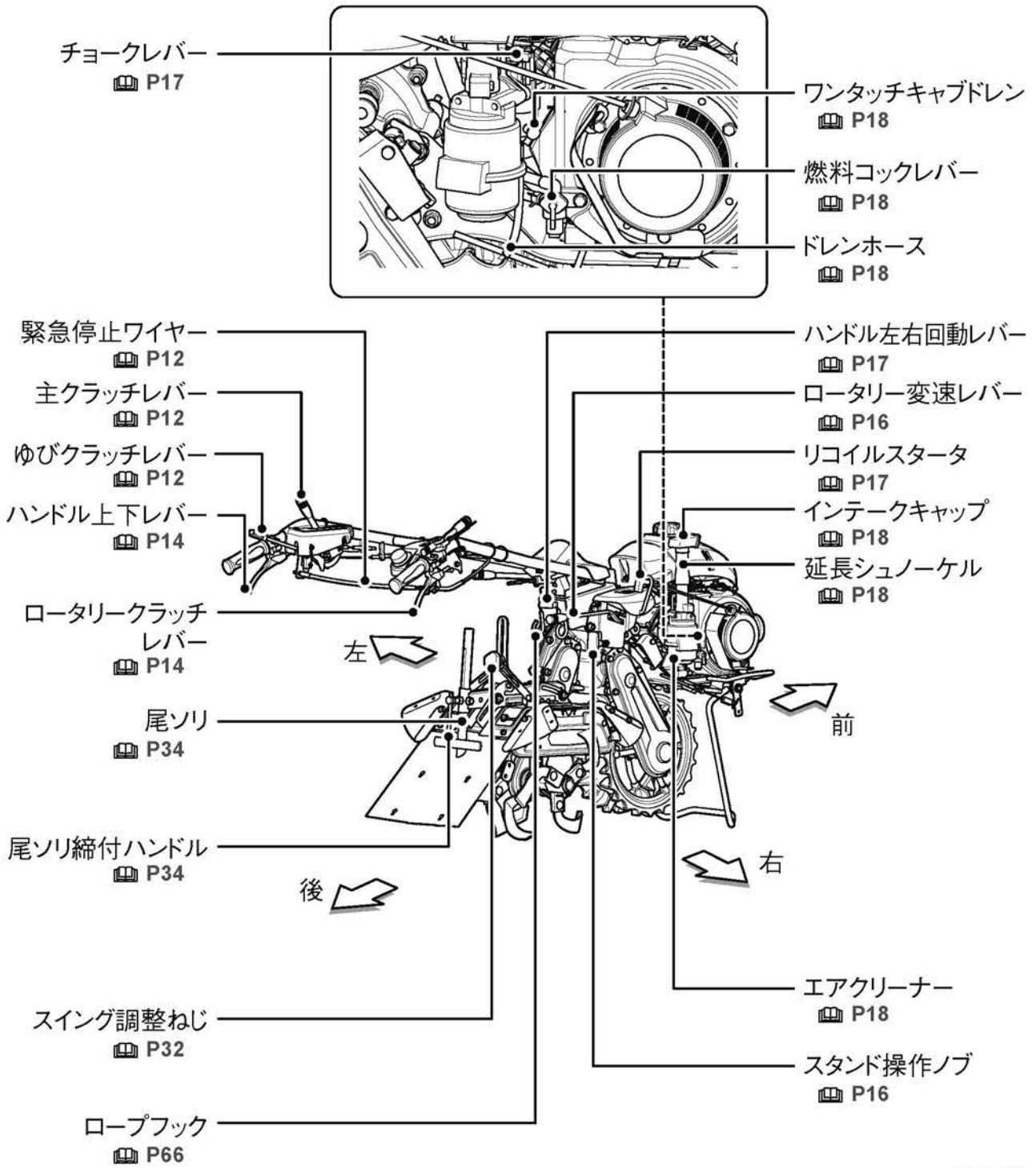
目次

E仕様エンジンスイッチ(キースイッチ部)



<YK651SK,CS,CX>





176193-00JA

1章 必ずお読みください

安全銘板

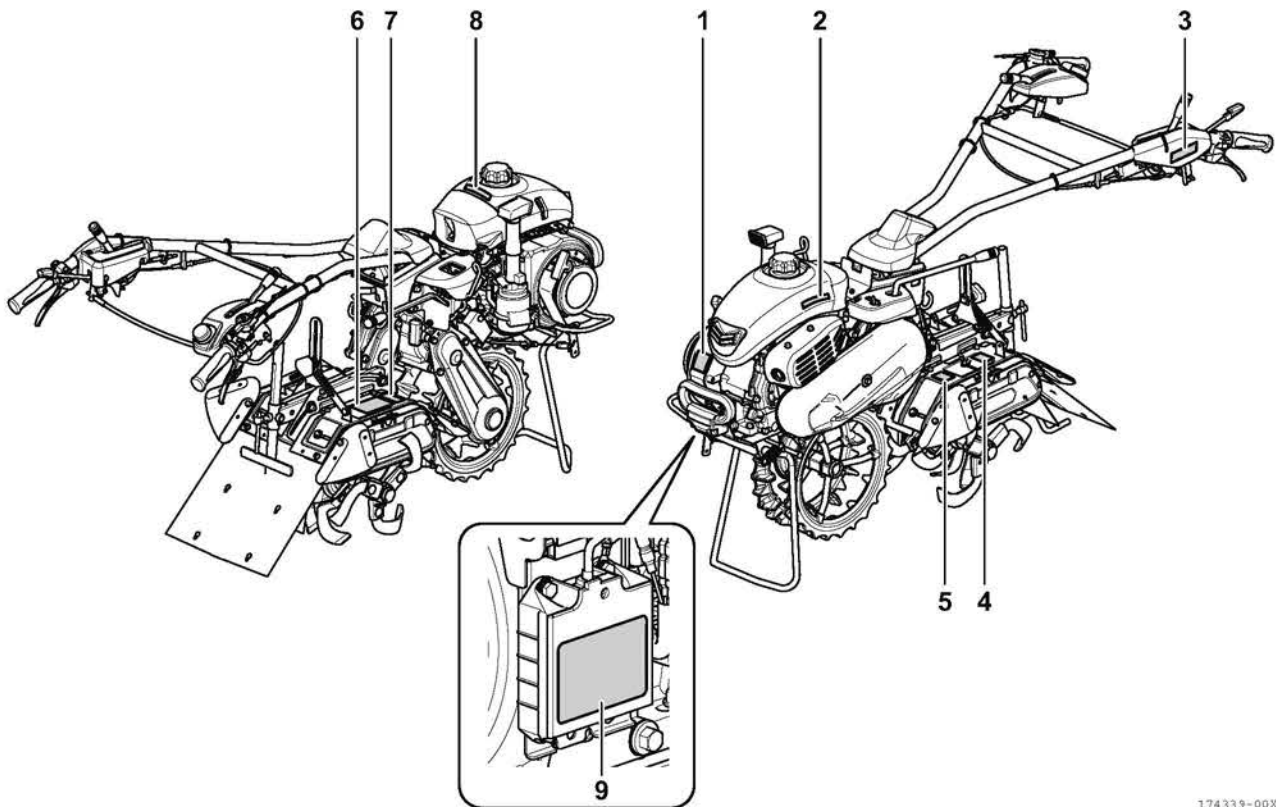
安全銘板の貼り付け位置

安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

※ イラストは YK651SK をモデルにしています。

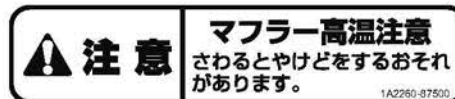
1
必ずお読みください



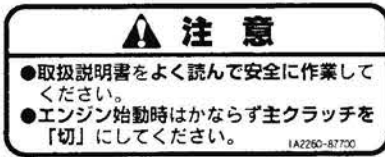
174339-00X

1. 1A2260-87100 警告 (排ガス)

2. 1A2260-87500 注意 (マフラー高温)



3. 1A2260-87700 注意 (取扱)



4. 1S0205-86900 警告 (ロータリー回転)



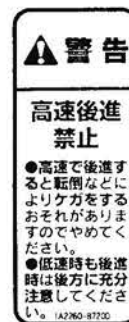
5. 1A2260-87600 注意 (エンジン停止)



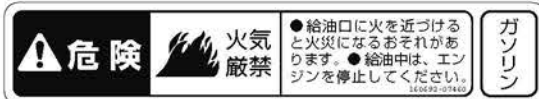
6. 1S0205-86910 警告 (ロータリーバック)



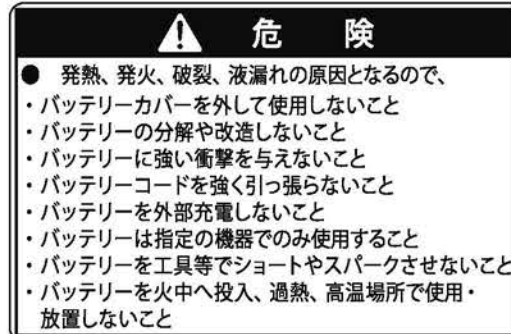
7. 1A2260-87200 警告 (高速バック)



8. 160692-07460 危険 (火気厳禁)



9. 〈E仕様〉ラベル (注意)



(バッテリー貼付品)

安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板はお買い上げいただいた特販店、または JA にご注文ください。

2章 運転のしかた

各部のはたらきと使いかた

運転操作部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

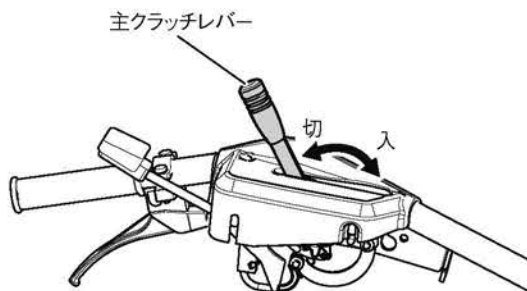
主クラッチ

エンジンからの動力を伝えたり、切り離したりするときに使用します。

■主クラッチレバー

主クラッチレバーを前方「入」位置へ倒すとクラッチが入ります。

主クラッチレバーを手前「切」位置へ引くとクラッチが切れます。

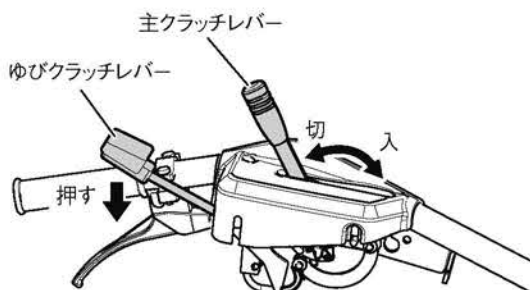


077244-00JA01

図 2-1 主クラッチレバー

■ゆびクラッチレバー

押すと「入」となりクラッチが入ります。もう一度押すと「切」となりクラッチが切れます。



※レバーを押すごとに「入」、「切」が替わります。 077244-00JA00

図 2-2 ゆびクラッチレバー

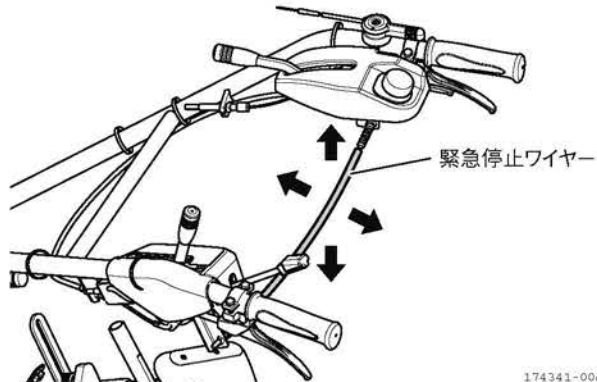
ゆびクラッチレバーを操作すると主クラッチレバーが連動して動きます。

【参考】

エンジン始動時は、主クラッチレバーを「切」位置にしないと始動できません。

緊急停止ワイヤー (VS仕様以外)

非常時に緊急停止ワイヤーを引くと主クラッチが「切」になり機械が停止します。(上下前後どの方向に引いても作動します)



174341-00JA

図 2-3 緊急停止ワイヤー (VS仕様以外)

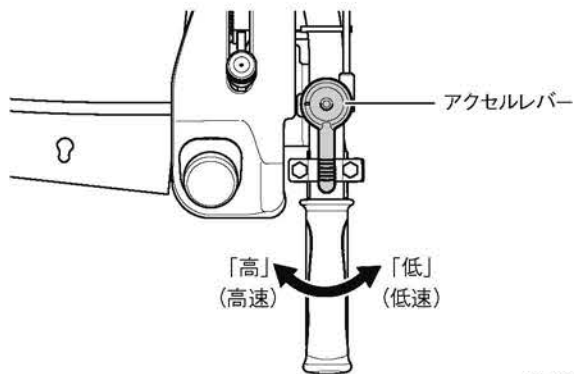
【重要】

作業を始める前に、緊急停止ワイヤーが確実に作動することを確認してください。

アクセルレバー

エンジン回転を調整するときに使用します。

- ・「低」側 (低速) : エンジン回転が遅くなります。
- ・「高」側 (高速) : エンジン回転が速くなります。



174340-00JA

図 2-4 アクセルレバー

エンジンスイッチ (E仕様以外)

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■エンジン始動時

エンジンスイッチを押しながら「運転」位置へ回すと、エンジンが始動できる状態になります。

「運転」位置のとき、エンジンスイッチは浮き上がります。

■エンジン停止時

エンジンスイッチを押すと、「停止」位置に戻り、エンジンが停止します。

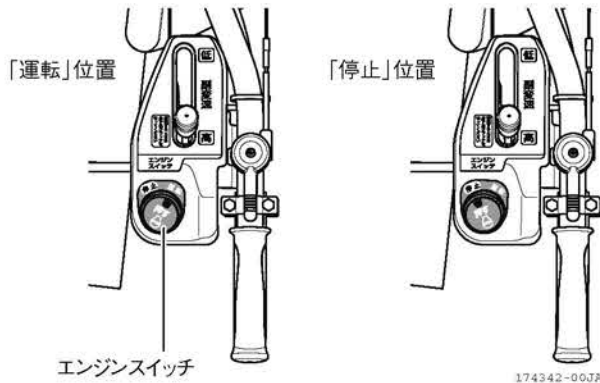


図 2-5 エンジンスイッチ (E仕様以外)

【参考】

- 緊急時には、エンジンスイッチを押し、エンジンを停止させてください。
- エンジンスイッチが「停止」側では、エンジンを始動することができません。
- エンジンの始動時と停止時の操作のしかたは、21～23ページを参照してください。

エンジンスイッチ (キースイッチ) (E仕様)

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■エンジン始動時

1. キースイッチを「停止」位置から「運転」位置へ回します。

エンジンを始動できる状態になります。

2. キースイッチを「運転」位置から「始動」位置へ回すとエンジンが始動します。

3. エンジンが始動したら、キースイッチを「運転」位置に戻します。

(手をはなせば運転位置に戻ります)

■エンジン停止時

キースイッチを「運転」位置から「停止」位置へ回すと、エンジンが停止します。

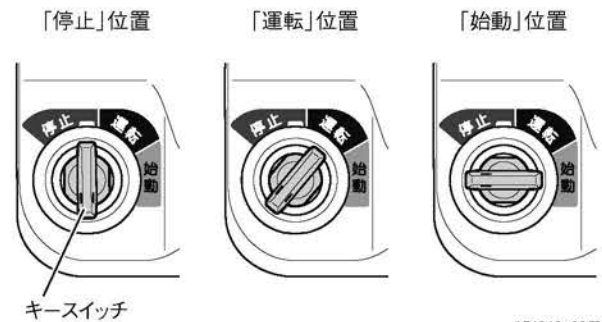


図 2-6 エンジンスイッチ (キースイッチ)

ハンドル上下レバー

作業者の体格や作業に合わせて、ハンドルを使いやすい高さに調節するときに使用します。

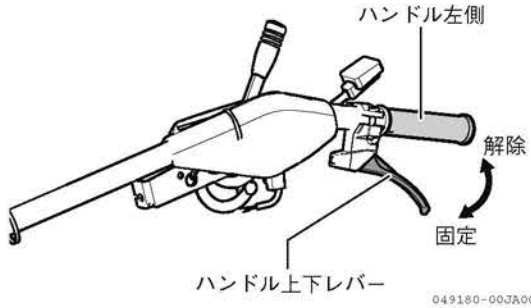


図 2-7 ハンドル上下レバー

ハンドルは上下5段階に調節できます。ハンドル上下レバーを握ったまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを離すと、その位置で固定されます。(30 ページ参照)

ロータリークラッチレバー

ロータリーの回転を、止めたり回したりするときに使用します。

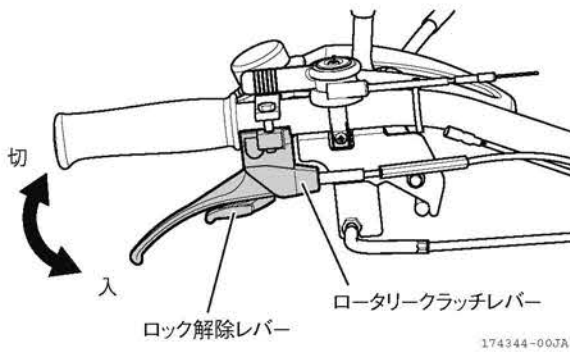


図 2-8 ロータリークラッチレバー

- ・「入」位置：
レバーを離した状態です。
クラッチがつながり、爪が回転します。
- ・「切」位置：
レバーを握った状態です。
クラッチが切れ、回転が止まります。

「切」の位置でレバーが保持されます。ロック解除レバーを握ると「切」位置保持が解除され「入」位置になります。

本機周辺部

エンジン、ミッション周辺部のレバーなどについて説明します。

走行変速レバー

走行速度と「前進」「後進」の切り替えをするときに使用します。

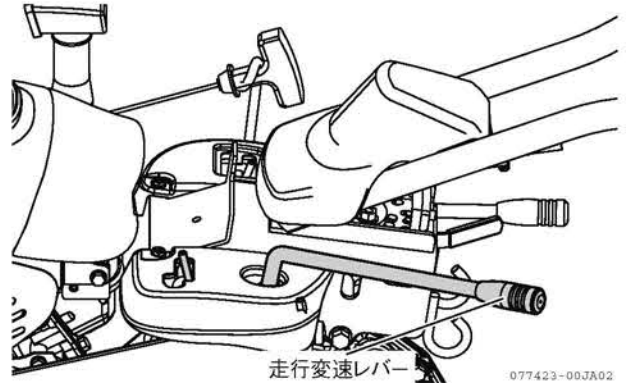


図 2-9 走行変速レバー

■ハンドルが正位置

前進2段、後進1段の変速ができます。また、副変速レバーとの組み合わせで、前進4段・後進2段の変速ができます。

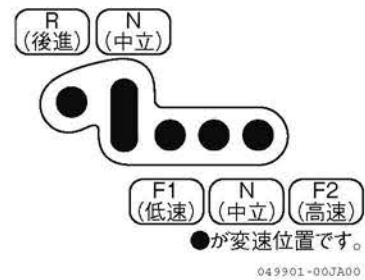


図 2-10

■ハンドルが逆位置

前進1段・後進1段の変速ができます。
また、副変速レバーとの組み合わせで、前進2段・後進2段の変速ができます。

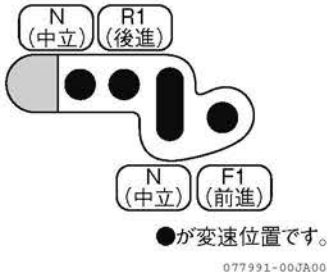


図 2-11

【重要】

ハンドル逆位置（回動時）で作業するときは、必ず高速バック牽制ツマミを上側にセットしてください。

高速バックでの作業は、機械が思わぬ方向に飛び出すおそれがあり、大変危険です。

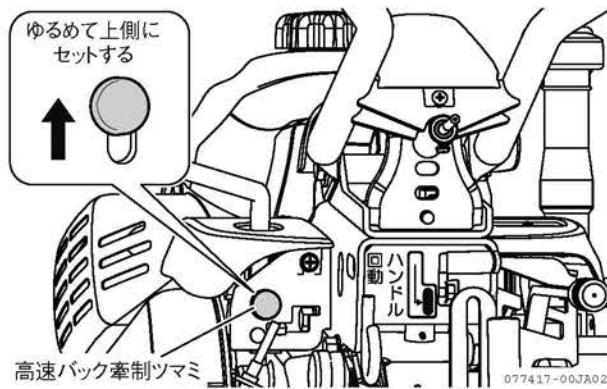


図 2-12

副変速レバー

走行・作業速度を変えるときに使用します。

【重要】

副変速レバーは必ず主クラッチを切って操作してください。

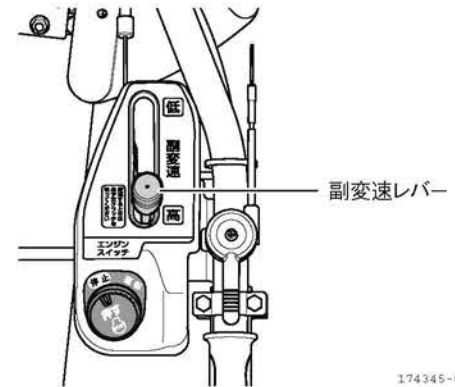


図 2-13 副変速レバー

■ハンドルが正位置

走行変速レバーとの組み合わせで、前進4段・後進2段の変速が選べます。

■ハンドルが逆位置

走行変速レバーとの組み合わせで、前進2段、後進2段の変速が選べます。

ロータリー変速レバー

作業に応じてロータリー回転変速と回転方向の変速に使用します。

正転2段・逆転2段の変速ができます。

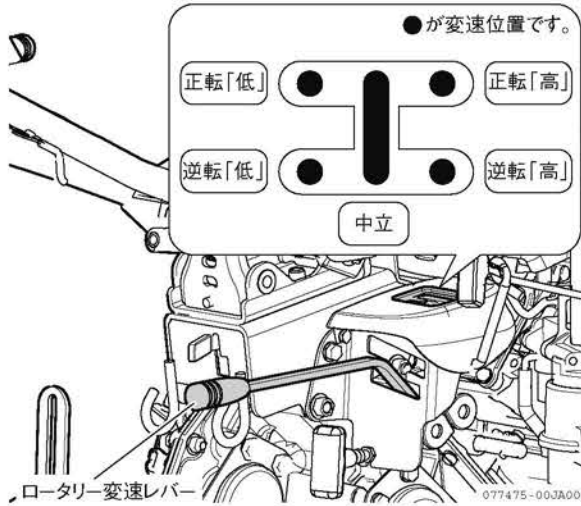
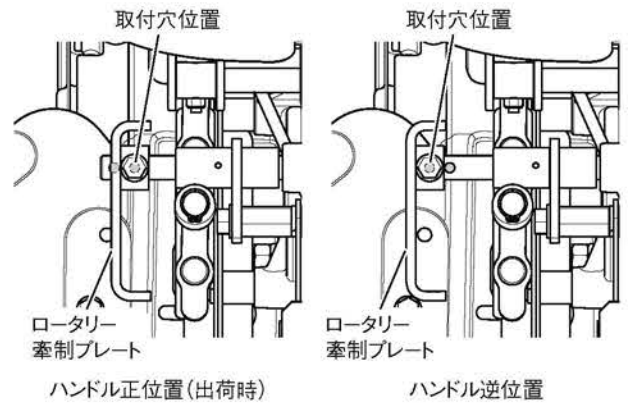
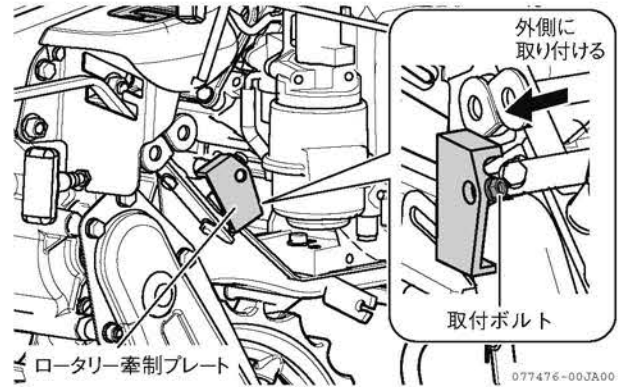


図 2-14 ロータリー変速レバー

【重要】

- 作業時以外は必ず中立位置にしてから走行してください。
- 安全のため、ハンドル正位置時に走行変速レバーを「R」（後進）位置にすると、ロータリー変速レバーが「中立」位置に戻るようになっています。また、走行変速レバーが「R」（後進）位置時にロータリー変速レバーを中立以外の位置に操作すると走行変速レバーが「N」（中立）位置に戻るようになっています。
- ハンドル逆位置での前進作業時は、走行変速レバーを「F1」（前進）位置にすると、ロータリー変速レバーが「中立」位置に戻ります。そのためにロータリー牽制プレートの取付ボルトを外し、ロータリー牽制プレートを外側位置に取り付けて使用してください。ハンドル正位置で作業するときは、必ず元の位置（内側）に戻してお使いください。



※エアクリーナー側から見た図です。

図 2-15

スタンド操作ノブ

スタンドを立てるときに使用します。

操作ノブを引くとスタンドが下がります。

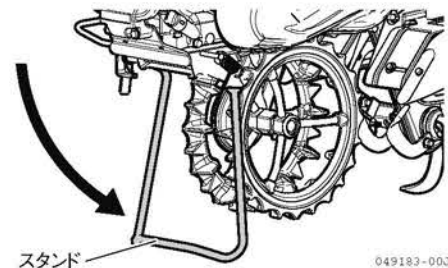
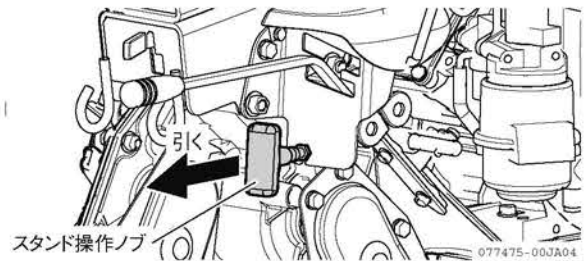


図 2-16

ハンドル左右回動レバー

ハンドルを回動（ターン）するとき 사용합니다。

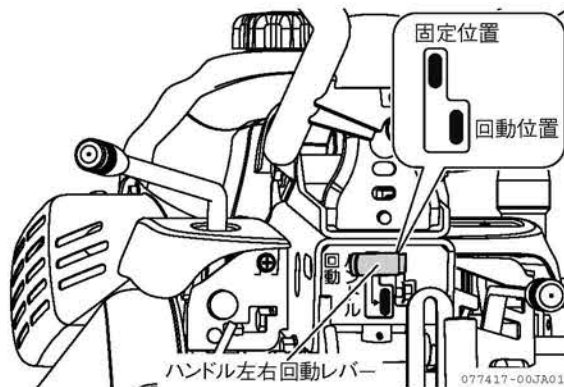


図 2-17 ハンドル左右回動レバー

レバーを回動位置にして、ハンドル正位置時に左右各 2 段の調節ができます。また、ベルトカバー側にハンドルを回すと逆位置に変更でき、逆位置では、左右各 1 段の調節ができます。

(30 ページの「ハンドルターン（回動）のしかた」を参照)

エンジン部

エンジン部のレバー等について説明します。

リコイルスタータ

エンジンを始動するとき 사용합니다。

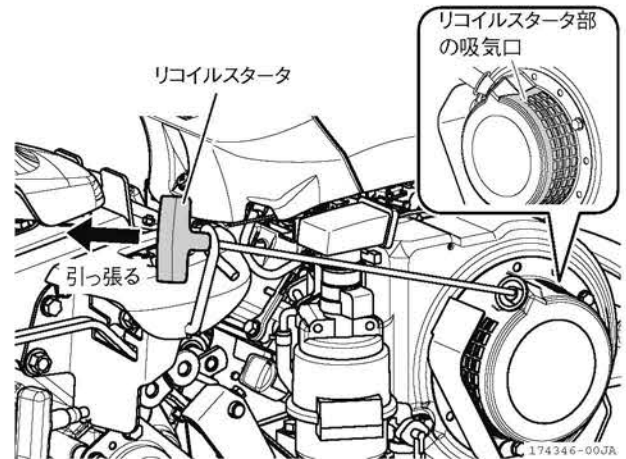


図 2-18 リコイルスタータ

【重要】

リコイルスタータ部の吸気口に付いたごみは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因となります。

チョークレバー

エンジンを始動するとき 사용합니다。

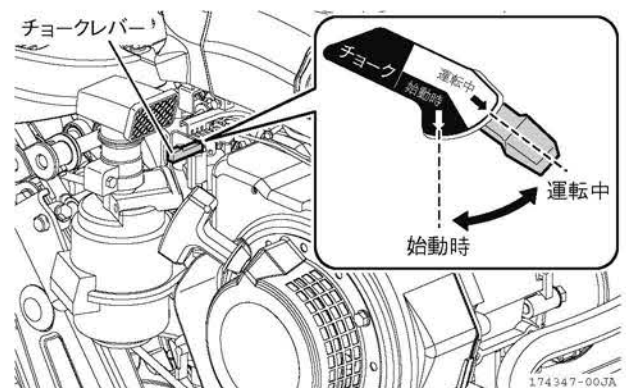


図 2-19 チョークレバー

- ・「運転中」位置：
通常の運転時、作業時の位置です。
- ・「始動時」位置：
エンジンが冷えているときの始動時の位置です。

燃料コックレバー

エンジンへの燃料供給、停止の切り替えを行うときに使用します。

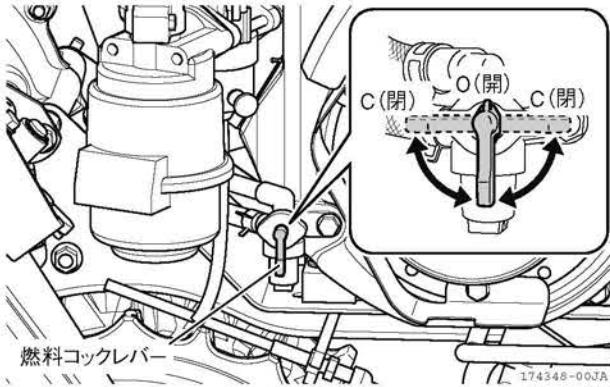


図 2-20 燃料コックレバー

- ・「O (開)」位置：燃料がエンジンへ流れます。
- ・「C (閉)」位置：燃料がエンジンへ流れません。

エンジン始動時、運転時は燃料コックレバーを「O (開)」位置に、エンジン停止時は「C (閉)」位置にします。

ワンタッチキャブドレン

キャブレター内の燃料を抜くときに使用します。(74 ページの「12章 用語解説」を参照)
キャブドレンを引くと燃料がドレンホースから流れ出ます。

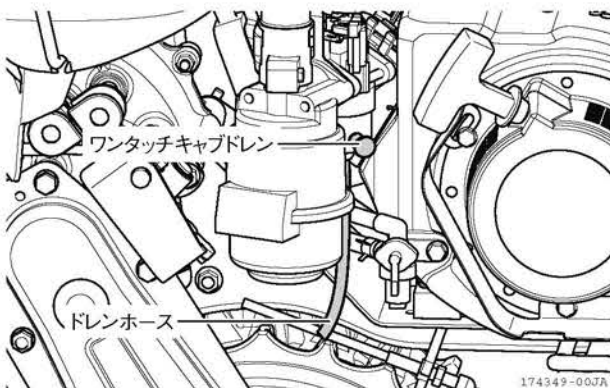


図 2-21 ワンタッチキャブドレン

エアクリーナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。定期的に洗浄してください。

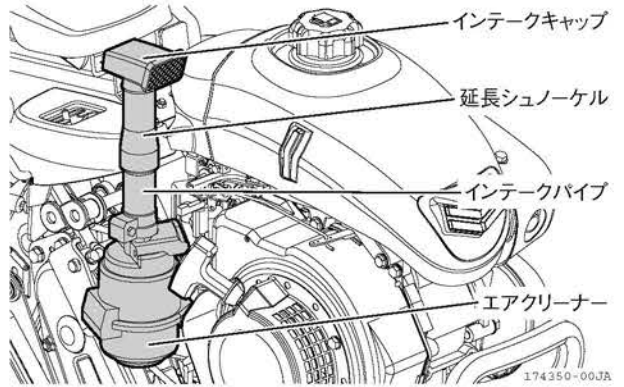


図 2-22 エアクリーナー

【参考】

エアクリーナーの洗浄のしかたは 51 ページをご覧ください。

延長シュノーケル

延長シュノーケルをエアクリーナーに取り付けて使用します。(図 2-22)

エアクリーナーの吸気位置を高くすることで、防塵性やエンジンの耐久性を高めます。

インテークキャップは吸気口を前方向(図 2-22)の向きに取り付けます。

【重要】

1 輪管理機を使用する前に、延長シュノーケルを必ず装着してください。延長シュノーケルを装着しないままエンジンを始動・運転するとエンジンのハンチングや出力不足など不調の原因になります。

運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえたばこや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に駐車させ、エンジンを停止してください。
- エアクリナーのエレメントは、必ず取り付けから始動・運転をしてください。逆火により炎が噴き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。カバー類が破損した状態で使用すると、1 輪管理機に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 使用前には必ず点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

緊急時の停止方法について

下記の 2 通りで機械を停止できます。

■ エンジンを停止する

〈E 仕様以外〉

エンジンスイッチを押してください。

エンジンが停止します。(図 2-23)

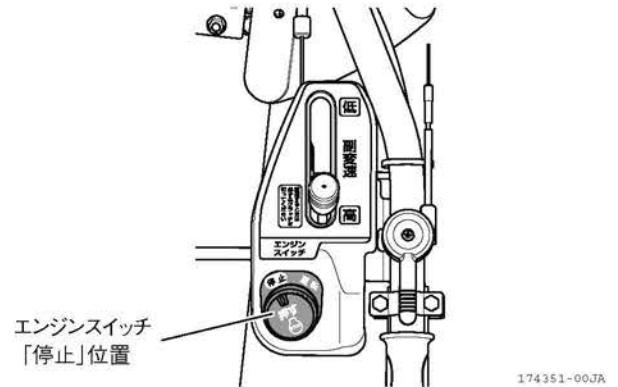


図 2-23 エンジンスイッチ

〈E 仕様〉

キースイッチを「運転」位置から「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-24)

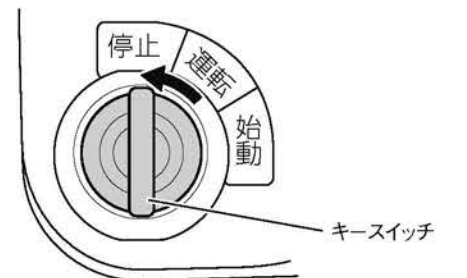


図 2-24 キースイッチ

■ 緊急停止ワイヤーを動かす

主クラッチレバーが「入」位置のときに緊急停止ワイヤーを動かします。

主クラッチレバーが「切」位置に戻り、本機が停止します。(図2-25)

緊急停止ワイヤーを前後上下どの方向に動かしても主クラッチが切れます。

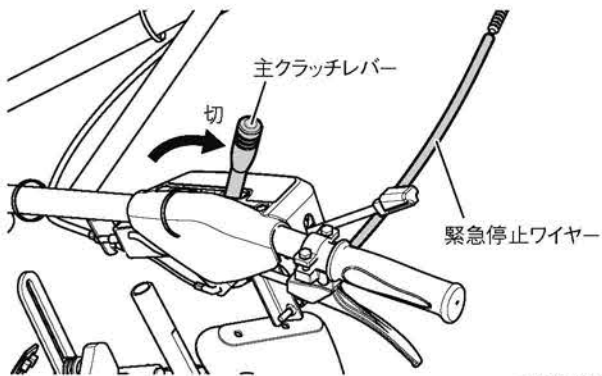


図 2-25

176195-00JA

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-1 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	56
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか。	47
エンジンオイルは規定量入っていますか。 エンジンオイルの汚れ、油漏れはありませんか。	49
走行ミッションオイルは規定量入っていますか。 走行ミッションオイルの油漏れはありませんか。	50
エアクリーナーの汚れはありませんか。	51
マフラーなどの過熱部分のほこりやごみはありませんか。	-
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	-
各操作レバー、スイッチの作動状態は正常ですか。	12～18 52～55
エンジンスイッチを「停止」位置にして、エンジンが停止しますか。(E仕様以外)	13
キースイッチを「停止」位置にしてエンジンが停止しますか。(E仕様)	13
リコイルの周りに土やごみが付着していませんか。	43

エンジンの始動と停止

始動のしかた

警告

- エンジンの始動および運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料コックレバーを「O (開)」位置にします。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にします。

【参考】

主クラッチレバーを「切」位置にしないと、エンジンが始動しません。

3. ロータリー変速レバーを中立位置にします。
4. 走行変速レバーを「N (中立)」位置にします。
5. アクセルレバーを「始動」位置にします。
(図 2-26)

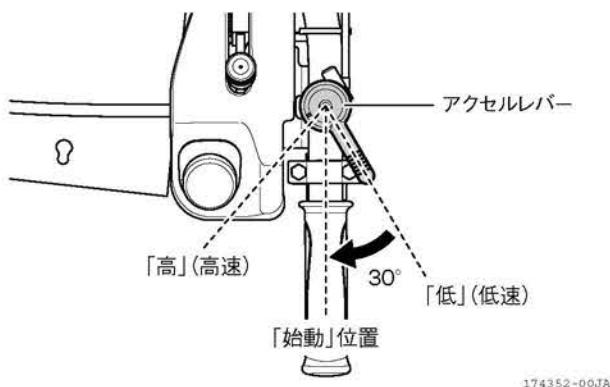


図 2-26 アクセルレバー「始動」

6. チョークレバーを「始動時」位置にします。
(図 2-27)

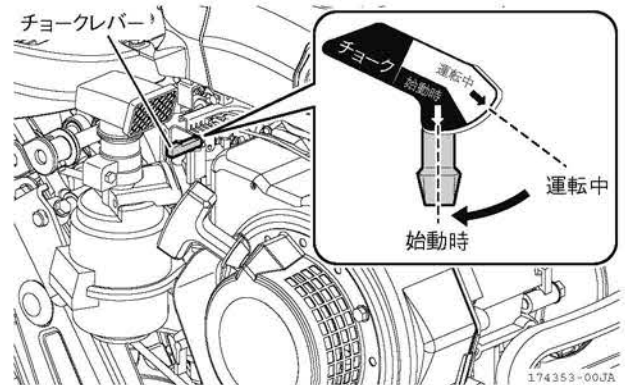


図 2-27 チョークレバー

【重要】

- エンジン始動後は、チョークレバーを確実に「運転中」位置に戻してください。
- エンジン停止後すぐに始動するときは、「運転中」位置にしてください。守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

エンジン始動操作のしかた (E仕様以外)

1. エンジンスイッチを「運転」位置にします。
2. リコイルスタータを引っ張ります。(図 2-28)
エンジンが始動したら、リコイルスタータをゆっくりと元に戻します。

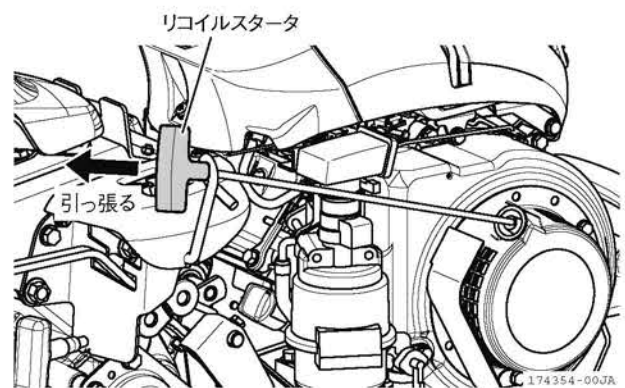


図 2-28 リコイルスタータ

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「運転中」位置にします。(図 2-29)

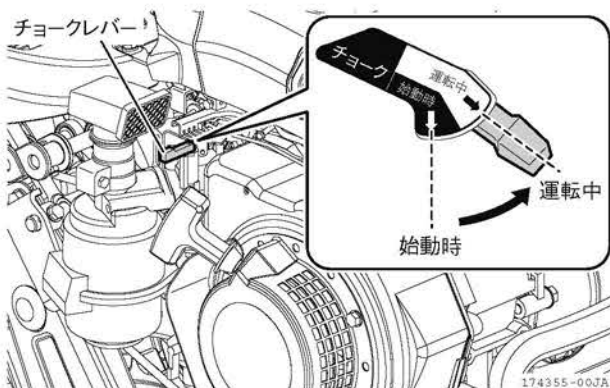


図 2-29 チョークレバー

【重要】

- リコイルスタータを何回も引っ張り続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動が困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスタータを引っ張らないでください。

【参考】

リコイルスタータを2～3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「運転中」位置にして、再度リコイルスタータを引っ張ります。

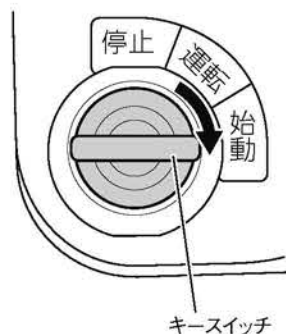
4. アクセルレバーを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。
5. 約5分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）を起こす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを「高」（高速）側と「低」（低速）側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジン始動操作のしかた（E仕様）

1. キースイッチを「運転」位置にします。
2. キースイッチを「運転」位置から、「始動」位置へ回します。エンジンが始動後、キースイッチから手を離すと「運転」位置に戻ります。

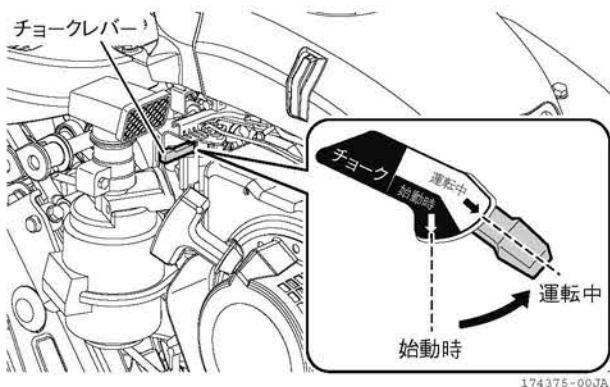


キースイッチ

119500-00JA00

図 2-30 キースイッチ

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「運転中」位置にします。



174375-00JA

図 2-31 チョークレバー

【重要】

- セルモータを5秒間回してもエンジンが始動しないときは10秒以上休んでから再始動してください。
- セルモータを5秒以上回し続けたり、短い休止時間で断続的に回したりすると、バッテリーが発熱して内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- 保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- 本機のバッテリーが充電されていないとキースイッチでエンジン始動はできません。(61ページの「バッテリーの充電方法」を参照)

- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。その際は、キースイッチを「運転」位置にして、リコイルスタータを引っ張りエンジンを始動してください。
- 運転中はキースイッチを「始動」位置にしないでください。火災やエンジン破損の原因につながる場合があります。

【参考】

- バッテリーが完全に放電し、セルスタータで始動できない場合はリコイルスタータで始動してください。(エンジンを始動させると約1分でセルスタータ1回分の充電ができます)(61ページの「バッテリーの充電方法」を参照)
 - セルモータを2～3回回してもエンジンが始動しないときはチョークレバーを「運転中」位置にして、再度セルモータを回します。
4. アクセルレバーを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。
 5. 約5分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

停止のしかた

エンジン停止のしかた(E仕様以外)

1. アクセルレバーを「低」位置にします。
2. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

エンジン停止のしかた(E仕様)

1. アクセルレバーを「低」位置にします。
2. キースイッチを「運転」位置から「停止」位置にします。エンジンが停止します。

【参考】

「停止」位置で、キーを抜くことができます。キーは、安全な場所で保管してください。

3. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

運転操作

1輪管理機の発進から停車までの操作方法を説明します。

警告

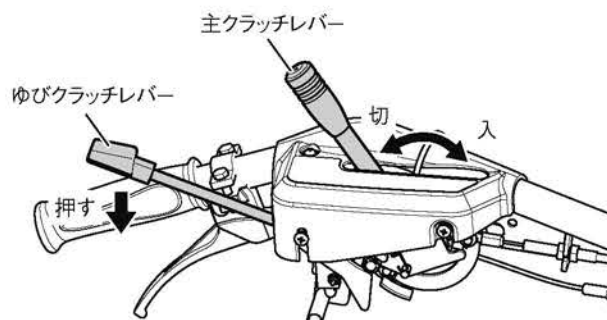
- 1輪管理機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- 坂道をやむを得ず走行するときは、転倒やスリップに注意し、最低速度で移動してください。このとき、走行変速レバーを「N (中立)」位置にしたまま走行しないでください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 後進するときは、アクセルレバーを「低」位置にし、周囲に十分注意してください。

注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通ったりするときは、エンジン回転を低速にしてください。

発進のしかた

1. 走行変速レバーを希望の位置に入れます。(14 ページ参照)
2. ロータリー作業をするときは、ロータリー変速レバーを希望の位置に入れます。
3. ロータリー作業をするときは、ロータリークラッチレバーを「入」位置にします。
4. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
5. 主クラッチレバーを「入」にするか、またはゆびクラッチレバーを押し下げます。主クラッチが「入」になり発進します。(図 2-32)



※レバーを押しすごとに「入」、「切」が替わります。

174356-00JA

図 2-32 ゆびクラッチレバー

【重要】

ロータリークラッチレバーを「入」の状態の主クラッチを「入」にすると、発進と同時にロータリーも回転します。

発進するときは、ハンドルを少し持ち上げて、ロータリーを浮かせた状態で発進後、ゆっくりハンドルを下げ、ロータリーを接地させてください。ロータリー作業終了後は、主クラッチを「切」にした後、ロータリー変速レバーを「中立」位置にしてから、移動してください。

【参考】

- ゆびクラッチレバーを再度押すと、主クラッチは「切」になります。
- 主クラッチレバーでも主クラッチの「入」「切」の操作ができます。

変速のしかた

⚠ 警告

後進時は、アクセルレバーを低速にし、周囲に十分注意をして行ってください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

変速をするときは、必ず主クラッチレバーを「切」位置にして、1輪管理機が停止してから行ってください。主クラッチレバーが「入」位置のまま変速すると、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

1. アクセルレバーを「低」（低速）位置にします。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にして停止させます。
3. 以下のレバーを作業内容に適した位置にします。
 - ・ 走行変速レバー（14 ページ参照）
 - ・ 副変速レバー（15 ページ参照）
 - ・ ロータリー変速レバー（16 ページ参照）

【参考】

停止時に走行変速レバーが入りにくい場合は、1輪管理機を前後に動かしてください。レバーが入りやすくなります。

4. 主クラッチレバーを「入」位置にして再発進してください。

■ 速度段と標準作業表

表 2-2 ハンドル正位置

速度段	走行変速段数	副変速レバー	作業
F1	F1	低	揚土・溝上げ
F2		高	中耕・除草・培土・播種
F3	F2	低	中耕・除草・培土
F4		高	移動
R1	R	低	移動
R2		高	

表 2-3 ハンドル逆位置

速度段	走行変速段数	副変速レバー	作業
F1	F1	低	ネギ掘取り・揚土
F2		高	移動
R1	R	低	うね立て+マルチ
R2		高	

旋回のしかた

⚠ 注意

- 作業中に旋回するときは、主クラッチを「切」にした後、ロータリークラッチレバーを握り、ロータリーの回転を止めてから再び主クラッチを「入」位置にして旋回してください。ロータリーが回転していると、回転部に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 坂道では、主クラッチレバーを「切」位置にしないでください。また、走行変速レバーを「N（中立）」位置にしないでください。
- 〈ハンドル正位置〉
旋回するときは、ハンドルを持ち上げて旋回してください。ハンドルを持ち上げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。
- 〈ハンドル逆位置〉
旋回するときは、ハンドルを押し下げて旋回してください。ハンドルを押し下げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。

■ ハンドル正位置の場合

1. アクセルレバーを「低」（低速）位置にします。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
3. ロータリークラッチレバーを「切」位置にし、ロータリー回転を止めます。
4. ハンドル上下レバーを握り、ハンドルを下げます。ハンドル上下レバーから手を離してハンドルを固定します。
5. 主クラッチレバーを「入」位置にします。
6. ハンドルを持ち上げて旋回します。（図 2-33）



図 2-33 旋回のしかた（ハンドル正位置）

7. 旋回終了後、主クラッチレバーを「切」位置にします。

8. ハンドル上下レバーで再びハンドルを元の高さにします。
9. ロータリー変速レバー、ロータリークラッチレバーを元の位置に戻します。

■ ハンドル逆位置の場合

1. アクセルレバーを「低」（低速）位置にします。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
3. ロータリークラッチレバーを「切」位置にし、ロータリー回転を止めます。
4. ハンドル上下レバーを握り、ハンドルを上げます。ハンドル上下レバーから手を離してハンドルを固定します。
5. 主クラッチレバーを「入」位置にします。
6. ハンドルを押し下げ旋回します。（図 2-34）



図 2-34 旋回のしかた（ハンドル逆位置）

7. 旋回終了後、主クラッチレバーを「切」位置にします。
8. ハンドル上下レバーで再びハンドルを元の高さにします。
9. ロータリー変速レバー、ロータリークラッチレバーを元の位置に戻します。

駐車のしかた

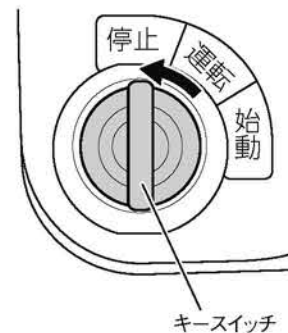
1. 1 輪管理機を平たんで安全な場所に移動させます。
2. エンジンを停止します。

停車のしかた

⚠ 注意

平たんで安定した場所に停車し、エンジンを止めてください。守らないと、1 輪管理機が動き出し、けがをするおそれがあります。

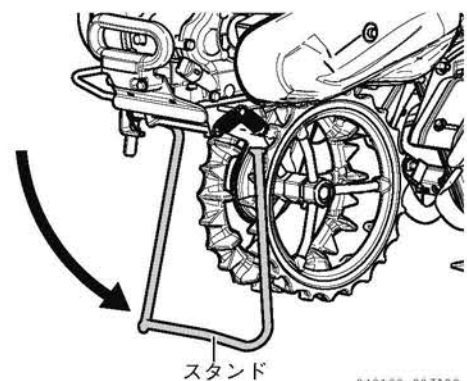
1. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
クラッチが切れ、1 輪管理機が停止します。
2. アクセルレバーを「低」(低速) 位置にします。
エンジン回転が下がります。
3. 走行変速レバー、ロータリー変速レバーを「N (中立)」位置にします。
4. 〈E 仕様以外〉
エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
〈E 仕様〉
キースイッチを「運転」位置から「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-35)



119500-00JA02

図 2-35

5. スタンドを立てます。(図 2-36)



049183-00JA00

図 2-36 スタンド

6. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
(図 2-37)

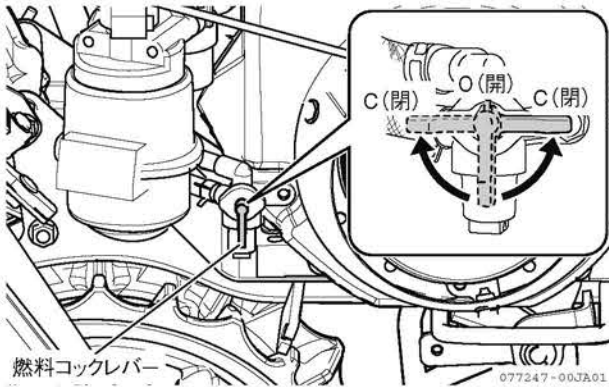


図 2-37 燃料コックレバー

スタンドの操作のしかた

スタンドの立てかた

1. 27 ページの「停車のしかた」の要領で、1 輪管理機を停止させます。ハンドルが逆位置のときは、ハンドルを正位置に戻します。
2. スタンド操作ノブを手前に引いてスタンドを下げます。(図 2-38)



図 2-38 スタンドの立てかた1

3. ハンドル上下レバーを握り、ハンドルを上げます。(図 2-39)



図 2-39 スタンドの立てかた2

4. ハンドルを手前に引きながら押し下げると、スタンドが立てられます。(図 2-40)



図 2-40 スタンドの立てかた3

【参考】

ハンドルを最上段に上げ、尾ソリを踏みながらハンドルを押し下げてもスタンドを立てられます。

スタンドの上げかた（収納）

1. ハンドルを下げます。（図 2-41）



図 2-41 スタンドの上げかた 1

2. 機体を後方に引きます。（図 2-42）



図 2-42 スタンドの上げかた 2

3. ハンドルを持ち上げ機体前方を下げると、スタンドが上がります。（図 2-43）



図 2-43 スタンドの上げかた 3

作業前の準備

ハンドル高さの調節のしかた

⚠ 警告

ハンドルの高さを調節するときは、1 輪管理機を停止してから行ってください。ロータリーが回転したときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ハンドルの高さは、作業者に合わせて 5 段階に調節することができます。

ハンドル上下レバーを握ったまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを離すと、その位置で固定されます。

ハンドルターン（回動）のしかた

ハンドル左右回動レバーを下方向へ押すと、ハンドルの左右回動とフルターンができます。作業に合わせて使いやすい角度（15 度おき）で使用できます。

1. ハンドル左右回動レバーを回動位置にします。（図 3-1）
2. ハンドル回動後はロックを固定位置にします。（図 3-1）

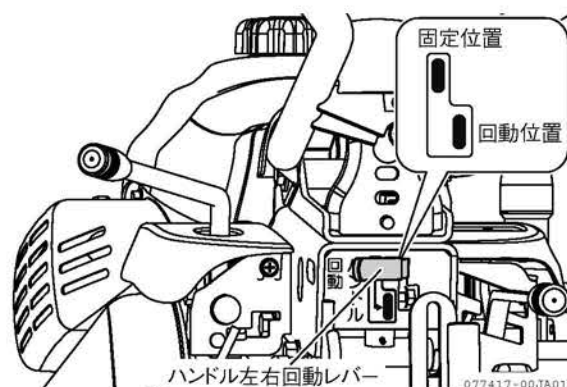
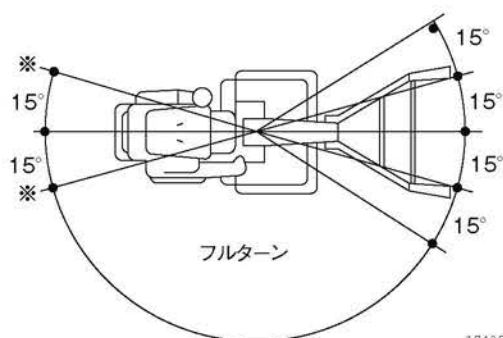


図 3-1 ハンドル左右回動レバー

■ 左右回動範囲



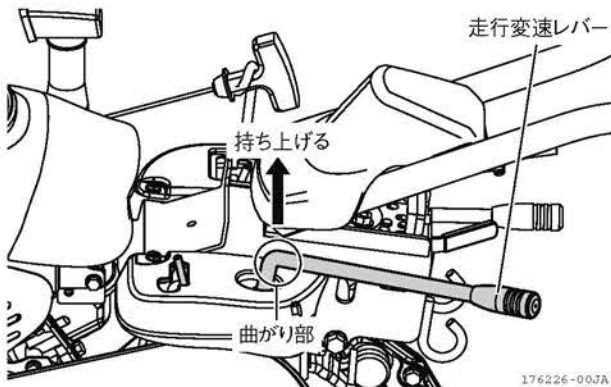
※ 位置で使用する場合は、ハンドル上下の最下段は使用できません。

図 3-2 ハンドルターン範囲

走行変速レバーの回動のしかた

走行変速レバーは、ハンドルの回動位置に合わせて操作しやすい位置に回動ができます。

1. 走行変速レバーの曲がり部を持ち上げながら回します。(図 3-3)
2. ハンドルの回動位置に合わせて、操作しやすい位置にセットします。(図 3-3)



※ ハンドルを回動したときに、走行変速レバーも回動することで、操作しやすくなります。

図 3-3 走行変速レバーの回動

ハンドル幅の調節のしかた (VS 仕様のみ)

ハンドル幅の調節は3段階あります。調節のしかたは下記の手順で行います。

1. ハンドル中央のノブねじを外します。(図 3-4)
2. 左右のハンドルを左右に動かし、ハンドルステアの穴を合わせます。
3. ノブねじを取り付けます。締め付けるときは、振動などでゆるまないように、確実に締め付けます。(図 3-4)

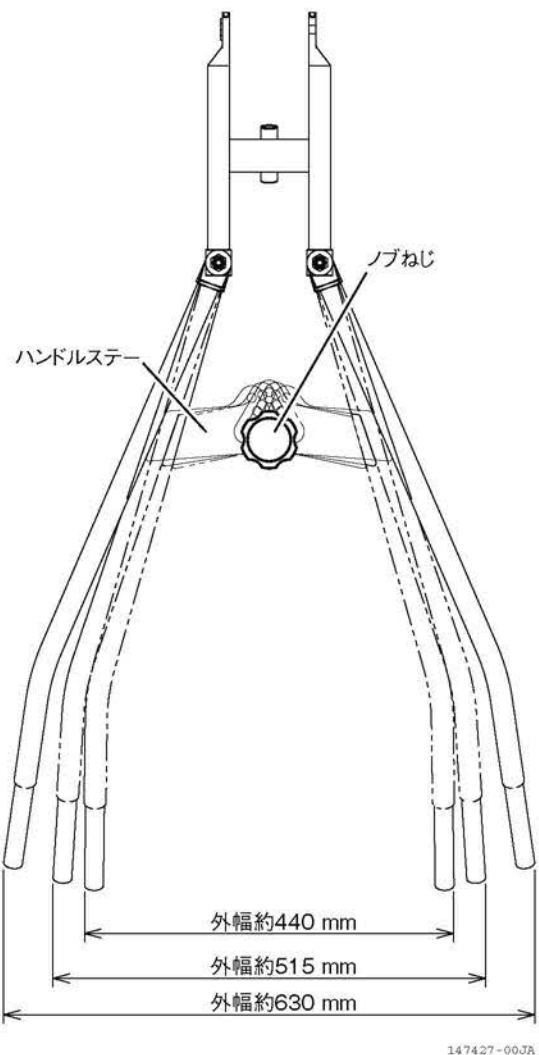


図 3-4 ハンドル幅の調節のしかた (VS 仕様のみ)

ロータリーカバーの調整のしかた

ロータリーカバーの幅を変えるとき

1. 本体カバーと延長カバーを固定している、左右のチョウねじ（各1個）をゆるめると、左右のカバーの幅を調整できます。（図3-5）
2. 調整後はチョウねじを締め付けます。（図3-5）

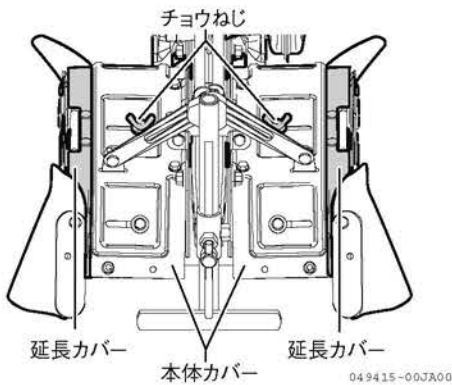


図 3-5 ロータリーカバー幅調整

ロータリーカバーを開閉するとき

1. ロータリー中央部のスイング調整ねじをゆるめます。
2. 左右のカバーをそれぞれ好みの角度に調整します。
3. 調整後は調整ねじを締め付けます。（図3-6）

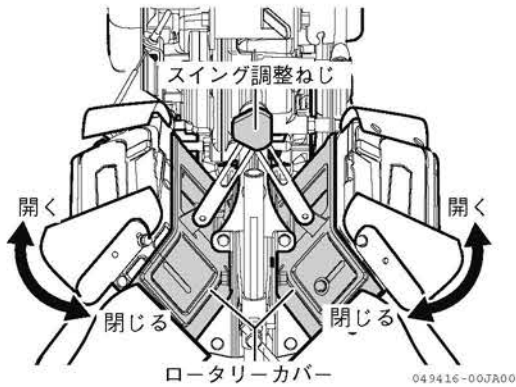


図 3-6 ロータリーカバーの開閉

サイドカバーを開閉するとき

サイドカバーは手で開閉できます。サイドカバーの開閉は作業に合わせて調整します。（図3-7）

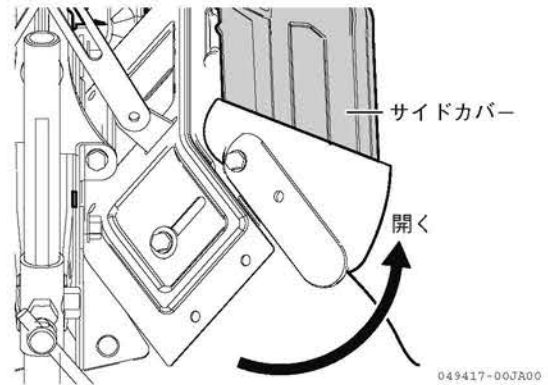


図 3-7 サイドカバーの開閉 1

【参考】

- サイドカバーの開閉操作が重いときや、サイドカバーの保持力が弱すぎる時は、サイドカバー内側のUナットの締め具合を調整してください。（図3-8）

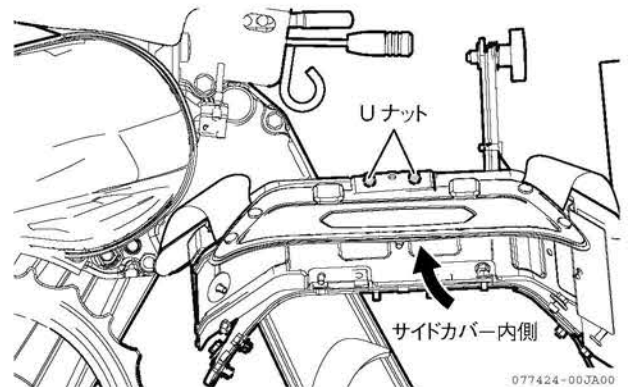


図 3-8 サイドカバーの開閉 2

- Uナットは図の位置のサイドカバー内側にあります。（図3-8）

ロータリーカバーを前後するとき

支柱を持ち前後に動かします。ロータリー逆転時、作業に応じて調整します。

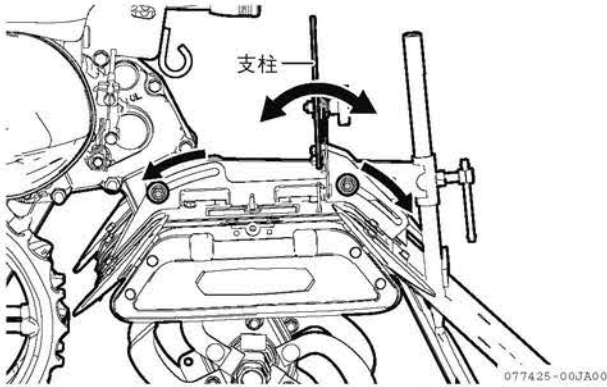


図 3-9 ロータリーカバーを前後するとき

表 3-1 ロータリーカバー位置の作業例

作業例	ロータリーカバー位置
溝掘作業	<p>溝掘作業（ロータリー逆転）のときは土が横に飛ぶように前に傾け、調整します。</p>
耕うん作業	<p>耕うん時にロータリーカバーが水平になるように調整します。</p>

ゴム板の調節のしかた

作業に合わせて、ロータリー後方にある左右のゴム板の調節ができます。

調節するときは、ロータリーカバーのフックにゴム板の穴（2カ所）を引っ掛けてください。

■標準位置

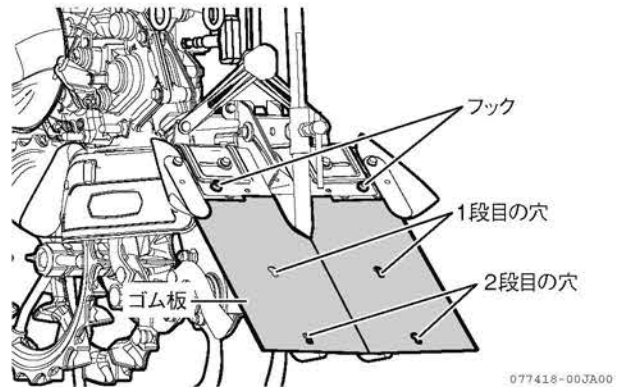


図 3-10 ゴム板（標準位置）

■1 段目

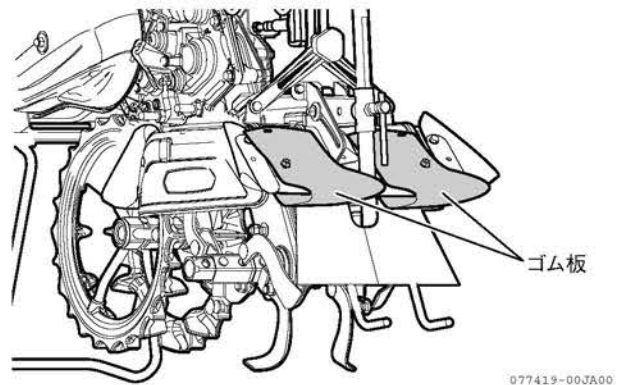


図 3-11 ゴム板（1 段目）

■2 段目

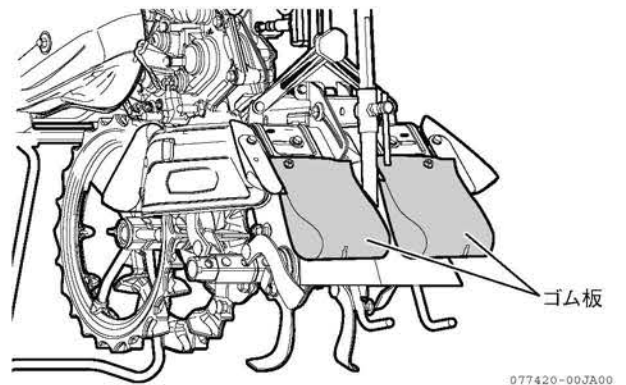


図 3-12 ゴム板（2 段目）

表 3-2 ゴム板穴位置の作業例

穴位置	作業内容
標準	中耕除草
1 段目	培土作業
	揚土作業 (ハンドル逆位置 : 正転作業時)
2 段目	揚土作業 (ハンドル正位置 : 逆転作業時)

【重要】

ゴム板が尾ソリに付いているバーの内側にあると、耕うん爪の巻き込みによりゴム板が破損する原因になります。作業時は、ゴム板が必ずバーの外側(後側)になるようにしてください。(図 3-13)

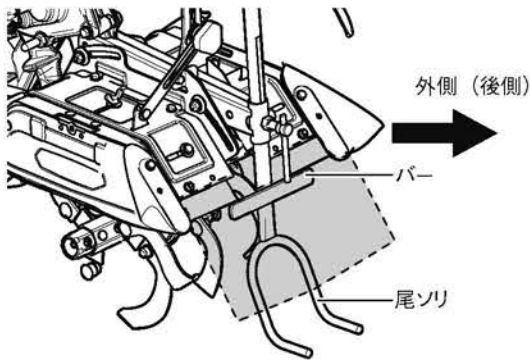


図 3-13 ゴム板の調節のしかた 4

耕深の調整のしかた

尾ソリの上下によって行います。

1. 尾ソリ締付ハンドルをゆるめます。(図 3-14)
2. 尾ソリを作業に適した耕深位置にします。
3. 尾ソリ締付ハンドルで固定します。(図 3-14)

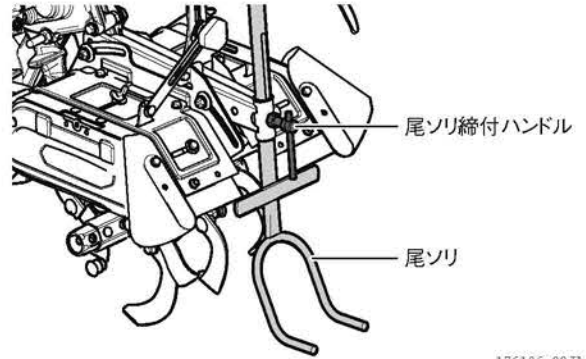


図 3-14 耕深の調整のしかた

176196-00JA

車輪幅の調節のしかた

(YK651SK,AS, YK651SK,CS, YK651SK,CXを除く)

作業に合わせて車輪の外幅を調節します。
 ゴムラグ車輪を振り替えることで、1輪タイプと2輪タイプが選択できます。
 車輪幅の調節時には、スタンドを使用してください。(28ページ参照)

■ 1輪タイプの場合

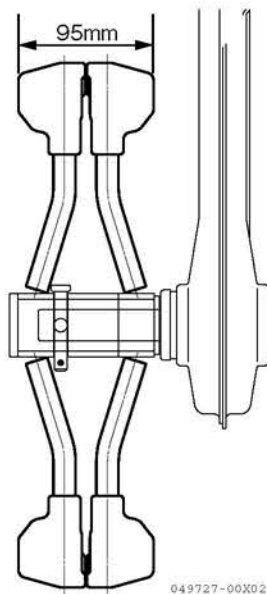


図 3-15

■ 2輪タイプの場合

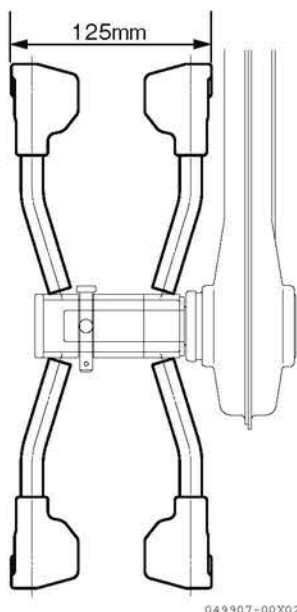
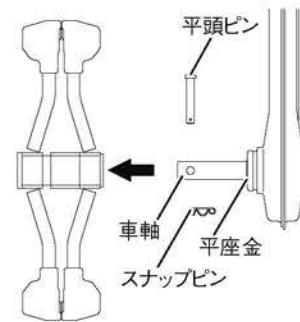


図 3-16

調節のしかた

■ 1輪タイプから2輪タイプにする場合

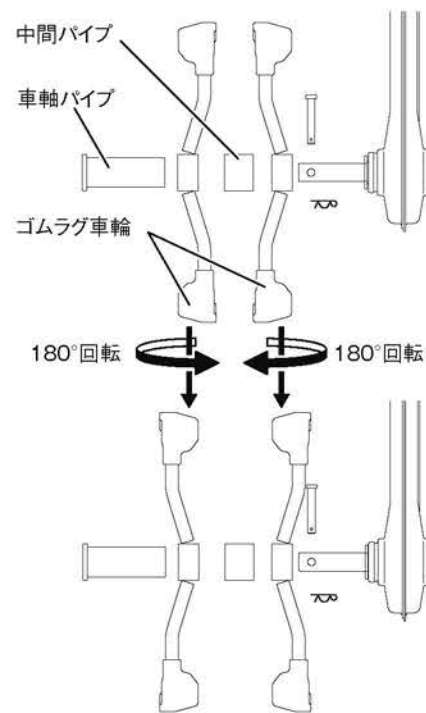
1. 車軸のスナップピンを外し、平頭ピンを外します。(図 3-17)
2. ゴムラグ車輪を車軸パイプごと外します。その際、車軸にある平座金は外さないでください。(図 3-17)



175017-00JA

図 3-17

3. 車軸パイプを外し、車輪の向きを入れ替えます。(図 3-18)



175020-00JA

図 3-18

4. 車軸パイプにゴムラグ車輪・中間パイプ・ゴムラグ車輪の順番で入れます。
5. ゴムラグ車輪を車軸に入れ、平頭ピンを取り付け、スナップピンを取り付けます。(図 3-19)

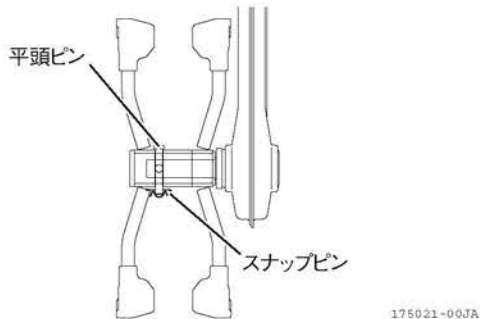


図 3-19

■ 2 輪タイプから 1 輪タイプにする場合

2 輪タイプから 1 輪タイプにする場合も同じ手順で行います。

クローラ取付角度の調整のしかた (CS、CX 仕様のみ)

ほ場の条件や作業に合わせてクローラ取付角度を 2 段階に調節できます。

1. センタースタンドを立てます。
2. トラックフレーム取付ボルト (4 本) を外します。(図 3-20)
3. トラックフレーム全体を矢印の方向に回し、手順 2. で外したボルト (4 本) で固定します。(図 3-20)

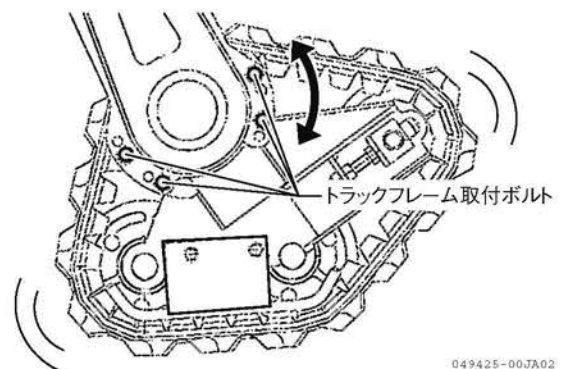


図 3-20 クローラ取付角度の調整のしかた

【参考】

作業に合わせてクローラ下面が水平に近くなるように調整してください。

作業について

⚠ 警告

- ロータリーの下にもぐったり、足を入れたりしないでください。ロータリーが動いたときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ハウス内で作業をするときは、排出ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
- 作業時以外は、ロータリーの回転を止めてください。特に、作業中に旋回や後進をするときは、必ずロータリーの回転が止まっていることを確認してください。
- マフラーに付着した枯草やわらは取り除いてください。火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 地面が固かったり、石をかんだり、ロータリーを急に地面に降ろしたりすると、回転する爪の勢いで1輪管理機が思わぬ方向に飛び出すことがあります（ダッシュ現象）。常に主クラッチレバーを「切」位置にできる姿勢で作業をしてください。
- 後進するときは低速で移動し、転倒しないように足元に十分注意してください。後方に障害物がないことを確認して、障害物と1輪管理機の間にはさまれないようにしてください。

ほ場での作業のしかた

1. 走行変速レバーを希望の変速段数の位置にします。
2. ロータリー変速レバーを希望の変速段数の位置にします。
3. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
4. 主クラッチレバーまたはゆびクラッチレバーを操作し、クラッチを「入」位置にして発進します。

爪・爪軸のセットのしかた

爪のセットのしかた

■ 爪の回転方向と爪の向きについて

⚠ 注意

爪の向きと進行方向を間違えないように注意してください。間違えると思わぬけがをすることがあります。

表 3-3 ハンドルの向きと爪の取り付けかた

	正しい付けかた	間違った付けかた
正転作業		
逆転作業		

爪軸の取り付けかた
(X、XNJ、NR 仕様を除く)

爪軸パイプと爪軸の取付方向により、下表の耕幅が選べます。爪軸は、爪軸取付ピンを抜けば耕うん軸から抜き取れます。

■ 耕幅の一例 (数値は目安です)

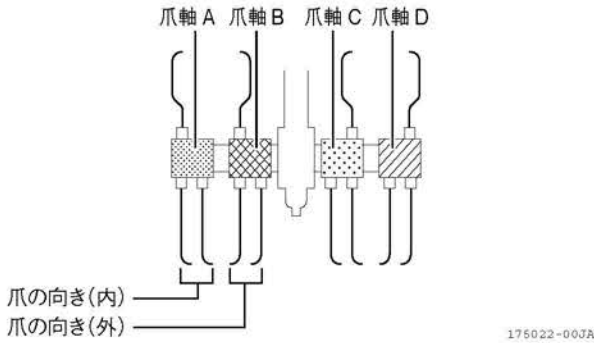


図 3-21

表 3-4 爪軸セット表

耕幅	爪軸パイプ	爪の向き		耕幅※2 (mm)	残耕 (mm)
		外側 (爪軸 A・D)	内側 (爪軸 B・C)		
狭	38	—	28 (外向き)	170	30
		—	28 (内向き)	175	35
	128	—	58 (外向き)	220	40
		—	58 (内向き)	235	50
↑ ↓ 広	128	58 (外向き)	28 (外向き)	285 (335)	30
		58 (内向き)	28 (内向き)	300 (350)	35
	128	58 (内向き)	28 (外向き)	(300) 350※1	30
		128	28 (外向き)	58 (外向き)	300 (350)
	128		28 (内向き)	58 (内向き)	305 (355)

※1. 内が出荷時のセット状態。(耕幅 350)
 ※2. 〈 〉内は爪軸ピン位置の変更時。

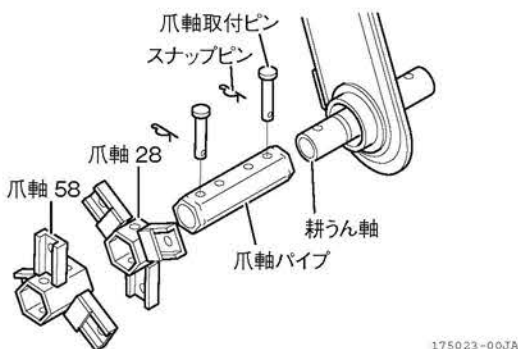


図 3-22

〈狭幅の場合〉

爪軸パイプ 38 を使用します。(付属品)

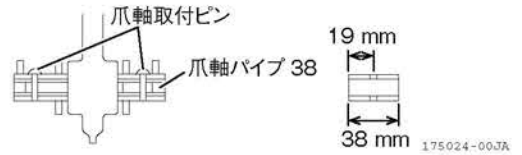


図 3-23

〈広幅の場合〉

爪軸パイプ 128 を使用します。

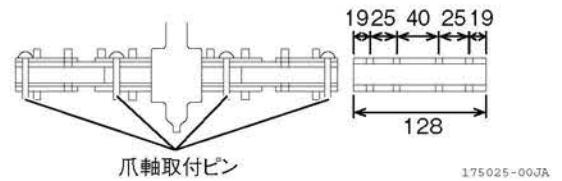


図 3-24

表 3-5

取付用部品	個数
爪軸取付ピン	4
スナップピン	4

爪の配列

爪軸の取り付けは、爪軸 58 と爪軸 28 の偏心爪が対角 (A・B) になるように取り付けてください。

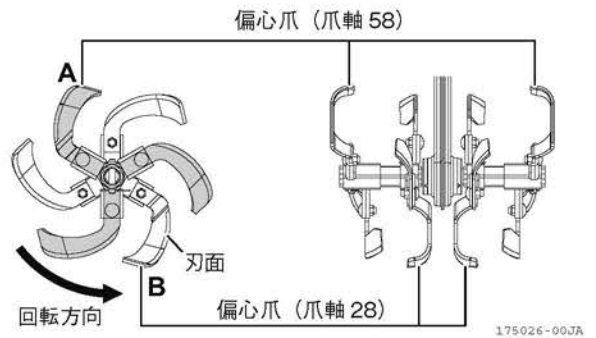


図 3-25

爪軸の左右は同時打ちになるように、取り付けてください。

正転・逆転時の爪軸の入れ替えかた (X仕様以外)

爪軸を入れ替えることにより、さまざまな作業ができます。変更の方法は大きく分けてつぎの4種類があります。

■ 耕うん作業（出荷状態）

爪軸 58 の取り付けピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。

出荷状態は耕幅 350 mm にセットしています。

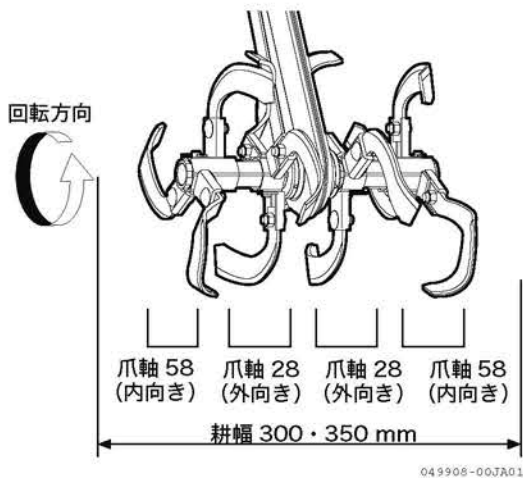


図 3-26 耕うん作業（出荷状態）

■ 逆転外向き〈1〉

1. 39 ページの「耕うん作業（出荷状態）」の状態から内側の爪軸 28 を左右入れ替えて爪軸 58 と、爪軸 28 の爪の向きを同じ方向にします。(図 3-27)
2. 爪軸パイプごと 180° 反転して取り付けます。(図 3-27)
3. 爪軸 28 の取り付けピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。

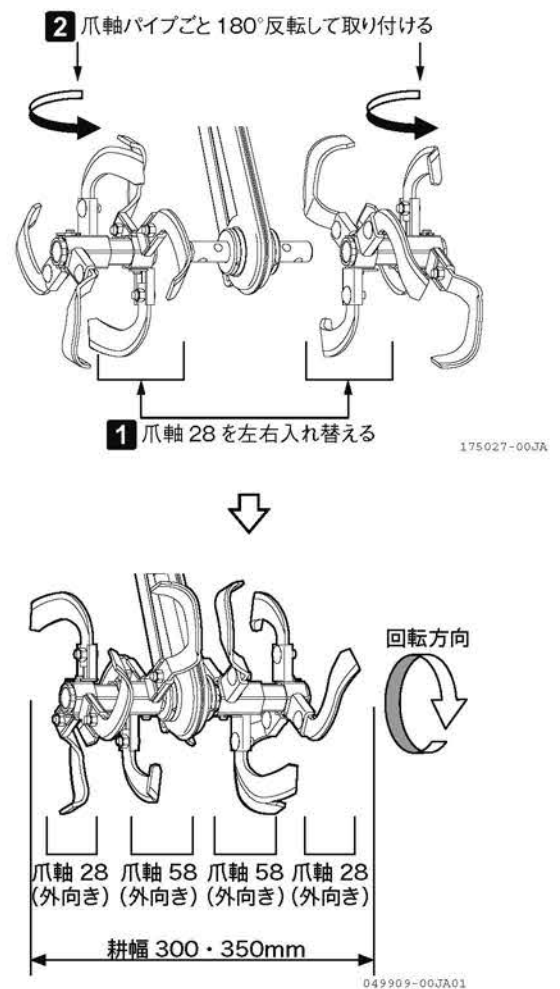


図 3-27 逆転外向き〈1〉

■ 逆転外向き 〈2〉

1. 39 ページの「逆転外向き 〈1〉」の状態から、左右それぞれの爪軸 58 を外側にし、爪軸 28 を内側にします。(図 3-28)

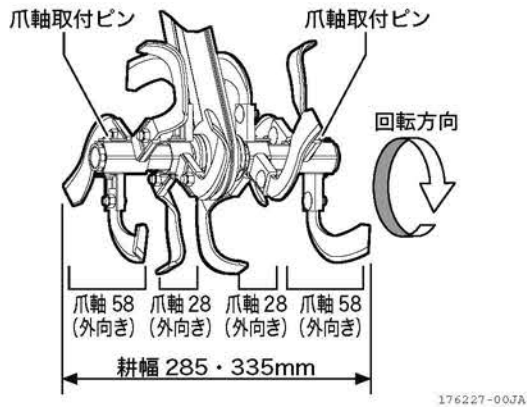
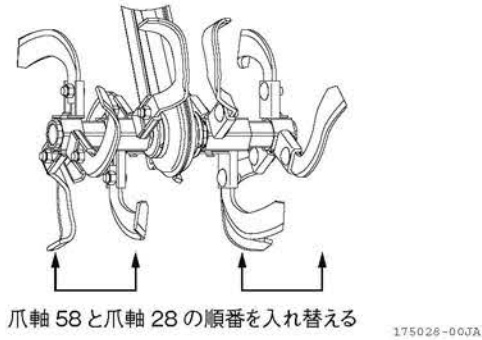


図 3-28 逆転外向き 〈2〉

2. 爪軸 58 の取付ピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。

■ 正転外向き

1. 39 ページの「耕うん作業 (出荷状態)」の状態から、それぞれの爪軸 58 を左右入れ替えます。(図 3-29)

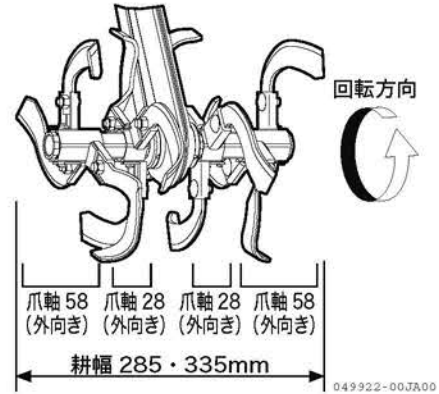
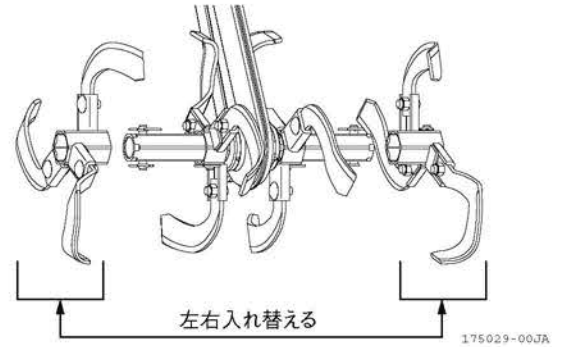


図 3-29 正転外向き

2. 爪軸 58 の取付ピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。

■ 逆転内向き

1. 39 ページの「耕うん作業（出荷状態）」の状態から、爪軸 28 を左右入れ替えて爪軸 58 と爪軸 28 の爪の向きを同じ方向にします。
2. 爪軸パイプごと 180° 反転して、左右入れ替えて取り付けます。（図 3-30）

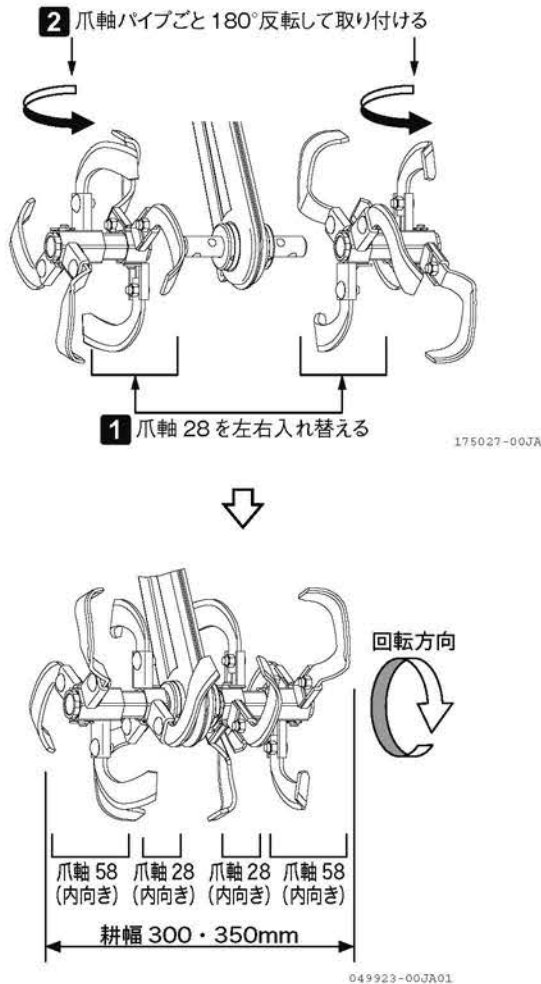


図 3-30 逆転内向き

3. 爪軸 58 の取付ピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。

正転・逆転時の爪軸の入れ替えかた (X 仕様)

爪軸を左右入れ替えると、内向き・外向きに変更できます。

■ 耕うん作業（出荷状態）

左右爪軸の外側にある偏芯爪が下図の位置になるように取り付けます。（図 3-31）

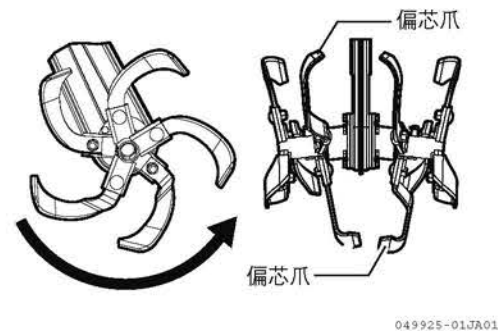


図 3-31 耕うん作業（出荷状態）

■ 正転外向き作業

41 ページの「耕うん作業（出荷状態）」から左右の爪軸を入れ替え、内側の偏芯爪が下図の位置になるように取り付けます。（図 3-32）

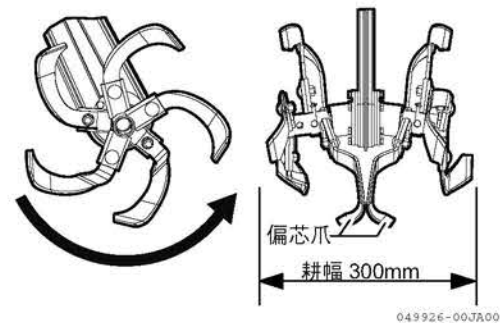


図 3-32 正転外向き作業

■ 逆転外向き作業

41 ページの「耕うん作業（出荷状態）」から爪軸を反転させ、内側の偏芯爪が下図の位置になるように取り付けます。（図 3-33）

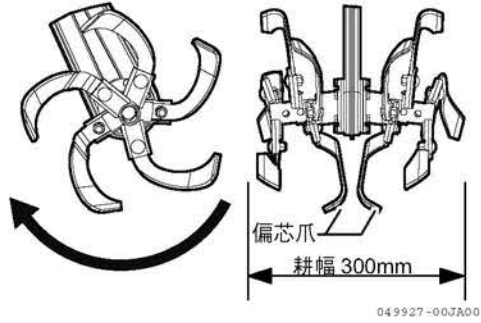


図 3-33 逆転外向き作業

4章 お手入れのしかた

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠ 注意

- 爪の手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。
- リコイルスタータ部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除しないと、エンジンが過熱しやけどをするおそれがあります。

作業後はその日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転・摺動部に適量注油してください。

爪や爪軸、ロータリーカバー内に付着した土は、きれいに洗い取ってください。また、爪軸に草などが巻き付いていたら、取り除いてください。(図 4-1)

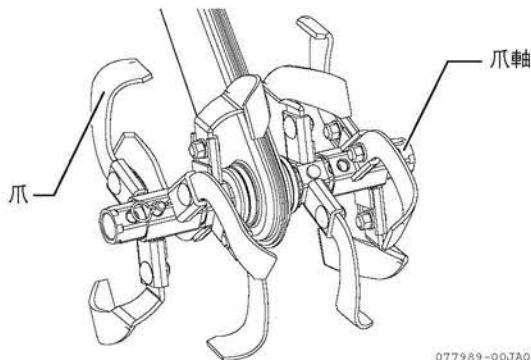


図 4-1 爪と爪軸

【重要】

- 水洗いをするときは、エアクリーナーの吸気口やキャブレターに水が入らないようにしてください。(図 4-2)
- リコイルスタータ部の吸気口に付いたごみは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因となります。(図 4-2)

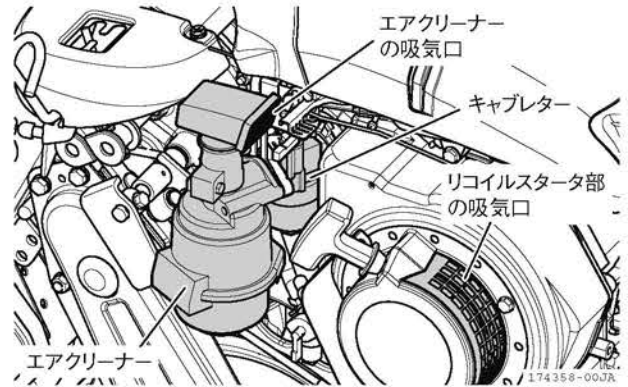


図 4-2 お手入れのしかた

各部の注油箇所

▲ 注意

回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。

〈凡例〉

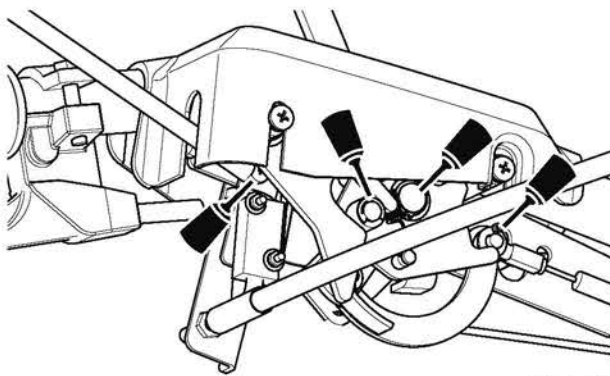
注油位置：



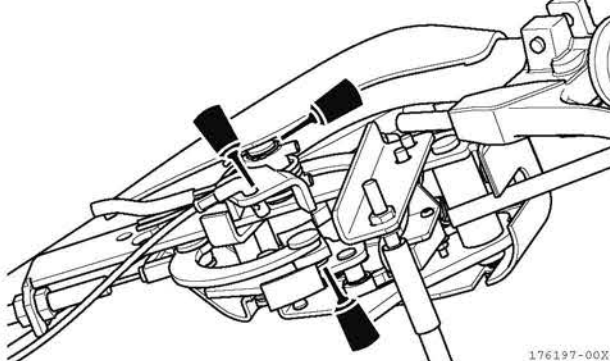
グリス位置：



■主クラッチレバー支点



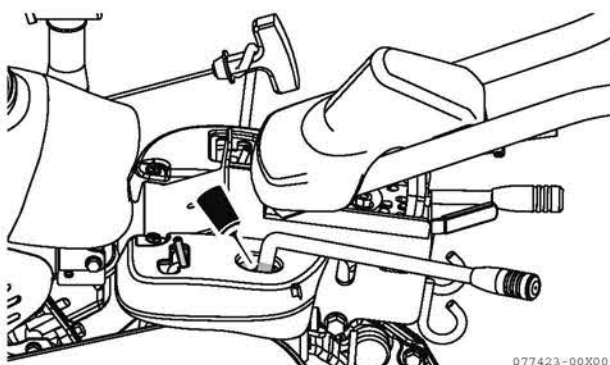
174359-00X



176197-00X

図 4-3 主クラッチレバー支点

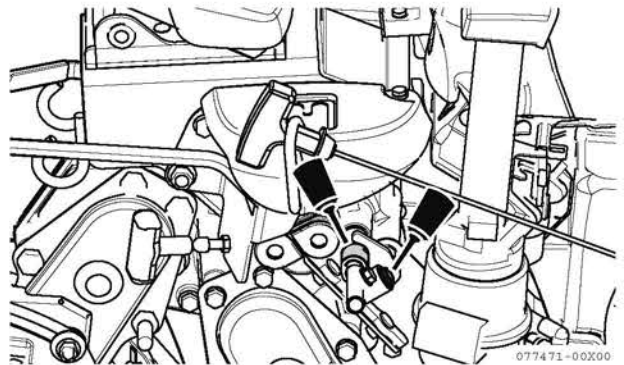
■走行変速レバー支点



077423-00X00

図 4-4 走行変速レバー支点

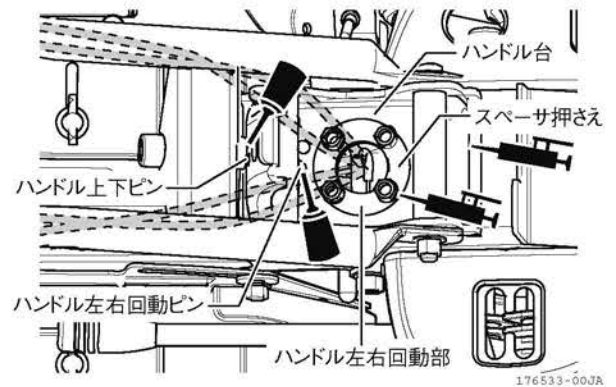
■ロータリー変速レバー支点



077471-00X00

図 4-5 ロータリー変速レバー支点

■ハンドル上下ピン・ハンドル左右回転部・ハンドル左右回転ピン



176533-00JA

図 4-6 ハンドル上下ピン・ハンドル左右回転部・ハンドル左右回転ピン

【参考】

ハンドル左右回転部への注油は、ハンドル左右回転レバーを操作しながら、ハンドル左右回転ピン部とハンドル基部の回転部に注油を行ってください。

■ 副変速レバー支点

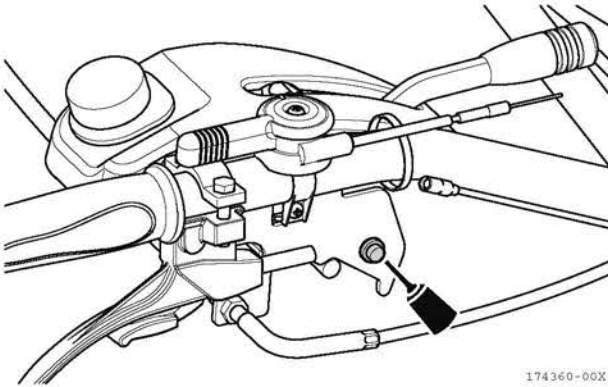


図 4-7 副変速レバー支点

■ 走行ケース・ロータリーケース

キャップを外し、中のチェンにグリスを塗布します。

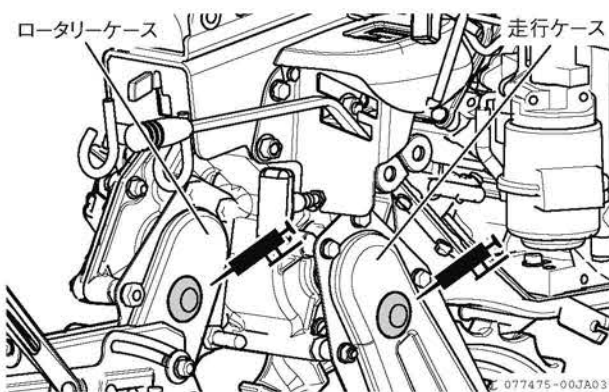


図 4-8 走行ケース・ロータリーケース

点検・整備のしかた

点検・整備の前には、同梱の「安全に作業をするためにヤンマー管理機・ミニ耕うん機」をよくお読みください。

⚠ 警告

- 作業者および補助者は作業に適した服装をしてください。思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、1 輪管理機を平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

- 回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。機械の摩耗などで角部が鋭利になっている場合、人が触れてけがをするおそれがあります。始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店または JA に修理をご依頼ください。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2 年ごとに交換してください。守らないと、燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。やけどをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けしないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こしたりするおそれがあります。

【重要】

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店または JA にご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期に1輪管理機の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。1輪管理機の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場で定期点検整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に1輪管理機を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所	点検・交換時期	内 容	参照 ページ
エンジンオイル	作業前に点検 1回目：25時間目に交換 2回目以降：50時間ごとに交換	規定量 ・ YK451SK：0.5 L ・ YK651SK：0.55 L エンジンオイル（ガソリンエンジン用） API分類：SE級以上 SAE分類：10W-30番	49
走行ミッションオイル	1回目：50時間目に交換 2回目以降：100時間ごとに交換	規定量：1.0L ミッションオイル 90番	50
エアクリーナーエレメント オイルバスのオイル	作業前に点検	灯油で洗浄、または交換 エンジンオイル（ガソリンエンジン用）の補給	51
燃料コシ器エレメント	作業前に点検	ストレーナーカップ・フィルターの掃除	52
主クラッチレバー	作業前に点検	クラッチ「入」時、指でベルト中央部を押した ときのたわみ量：約 10 mm	52
ロータリークラッチレバー	作業前に点検	レバーの遊び量：1～3 mm	—
副変速レバー	作業前に点検	レバーの遊び量：1～2 mm	55
ハンドル上下レバー	作業前に点検	レバーの遊び量：1～3 mm	54
Vベルト	作業前に点検	損傷、亀裂がない	—
点火プラグ	50時間ごとに点検	火花ギャップ（電極すき間）：0.7 mm	58
耕うん爪取付ボルト	作業前に点検	増締め	56
耕うんケース取付ボルト	作業前に点検	増締め	56
走行ケース取付ボルト	作業前に点検	増締め	56
エンジン取付ボルト	作業前に点検	増締め	56
燃料パイプ、電気配線	作業前に点検	燃料パイプとその結合部の点検、 電気配線の被覆はがれや傷の点検	59
バッテリー	動作異常時	十分な運転による充電を行っても始動回数が少 なくなったとき	62

燃料の点検・補給・排出のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
 - ・ エンジンを必ず止めて燃料補給をしてください。
 - ・ たばこなどの火気を近づけないでください。
 - ・ こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は給油をしないでください。火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火して火災が起こり、やけどや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給をする前に、機械などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してください。静電気の放電による火花が気化したガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料は、燃料フィルターを通して補給してください。ごみなどが詰まり、燃料が漏れて火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

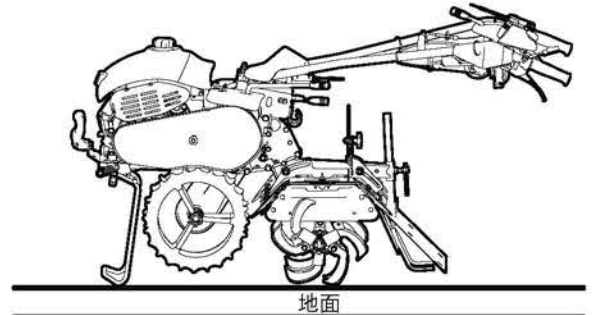
燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。やけどや火災を引き起こすおそれがあります。

【重要】

ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。ガソリンの処分は、特販店または JA へご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

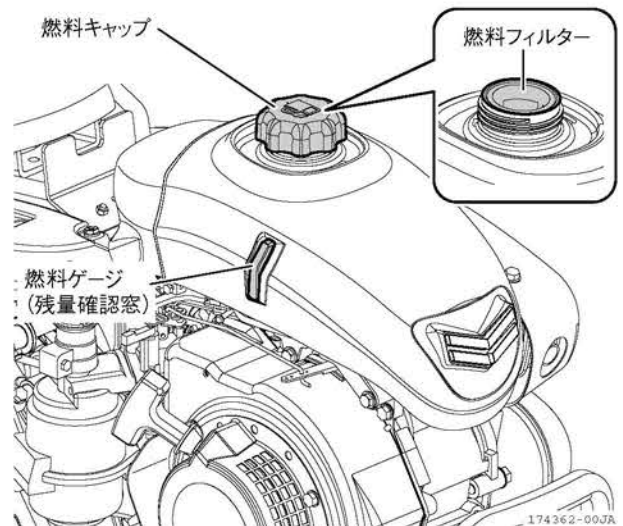
1. 1 輪管理機をスタンド、爪が接地した状態にします。(図 4-9)



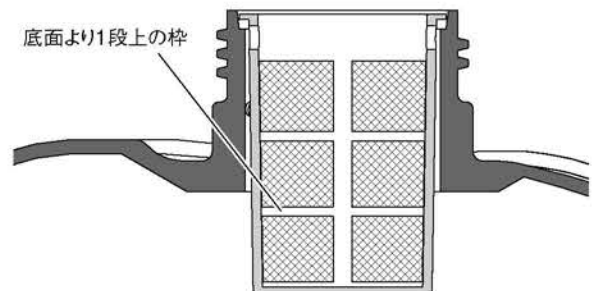
174361-00JA

図 4-9 スタンド、爪接地状態

2. 燃料キャップを外し、燃料フィルターにごみが詰まっていないか点検します。(図 4-10)
3. 燃料タンク横の燃料ゲージで、燃料の残量を点検します。(図 4-10)
4. 不足している場合は、燃料の油面が燃料ストレーナー内側下段の枠(ストレーナー底面から 1 段上の枠)を超えないように補給します。この位置が規定量です。(図 4-10)



174362-00JA



076009-00JA00

図 4-10 燃料の残量確認

【重要】

- 点検時に、燃料漏れのないことも確認してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）を使用してください。
混合ガソリンや軽油・灯油、または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使ったりすると、エンジンの故障につながります。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後1カ月以上保管したガソリンは使用しないでください。
- 燃料を規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで燃料を抜いてください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
2. 燃料コシ器下部の四角部を工具（10 mm）でゆるめて、燃料コシ器のカップを外します。（図 4-11）

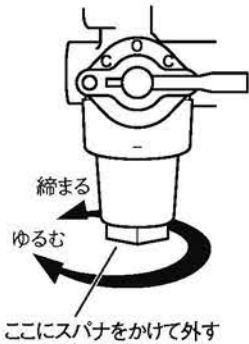


図 4-11 燃料コシ器（カップ）

3. 燃料コシ器の下に容器を置き、燃料コックレバーを「O（開）」位置にします。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料が全部抜けきったら、燃料コックレバーを「C（閉）」位置にし、燃料コシ器にカップを取り付けます。

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
2. ドレンホースの下に容器を置きます。
3. ワンタッチキャブドレンを引きます。キャブレター内の燃料がホースから出てきます。（図 4-12）
4. ホースから燃料が全部抜けきったら、ワンタッチキャブドレンを放します。（図 4-12）

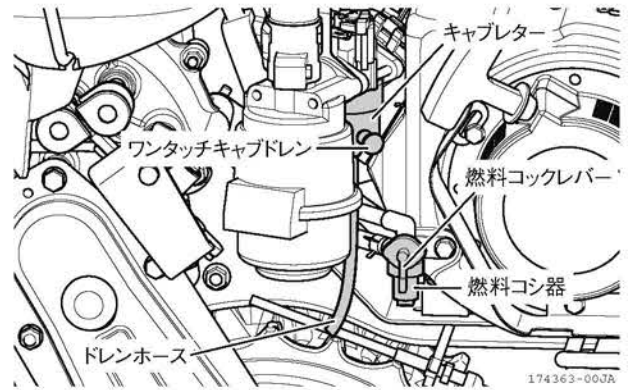


図 4-12 燃料の抜きかた

オイルの点検・交換のしかた

⚠ 注意

オイルの点検・交換・補給でこぼれたオイルは必ずふき取ってください。滑って転倒し、けがをす
るおそれがあります。

【重要】

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。
廃油の処分は、特販店またはJAへご相談ください。

エンジンオイル

表 4-2 エンジンオイルの規定量

型式	規定量 (目安量)
YK451SK	0.5 (0.45) L
YK651SK	0.55 (0.5) L

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。(図 4-13)

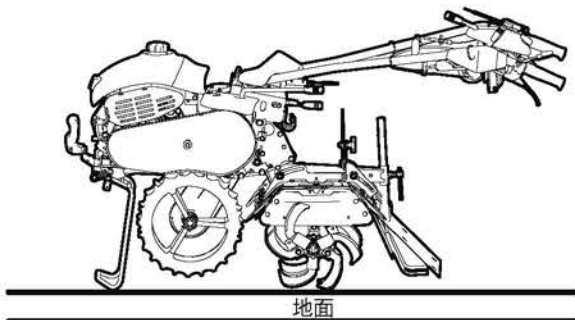


図 4-13 エンジン水平状態

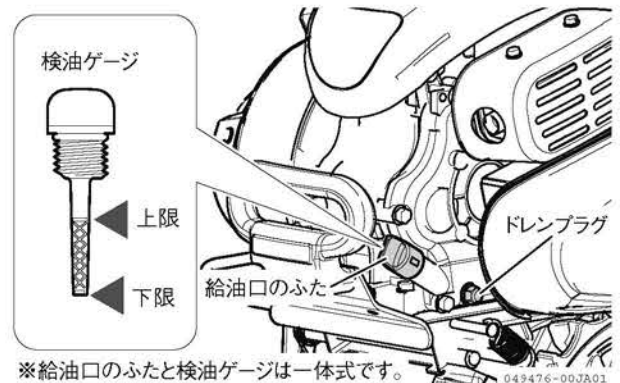
174361-003A

■点検のしかた

1. 給油口のふたを外して、先端の検油ゲージのエンジンオイルをきれいにふきます。(図 4-14)
2. 給油口のふたを給油口に差し込み (ねじ込まない)、もう一度抜き出します (図 4-14)

【重要】

エンジンオイルの量を確認するときは、給油口のふたを、ねじ込まずにいっぱいまで差し込んでください。



※給油口のふたと検油ゲージは一体式です。

図 4-14 点検のしかた

3. エンジンオイルが検油ゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
4. 点検後、給油口にふたを取り付けます。

【参考】

点検時、エンジンオイル漏れのないことも確認してください。

■補給のしかた

エンジンオイルが不足している場合は、油面が検油ゲージの上限の位置になるまで、給油口から補給します。

【重要】

- 補給するエンジンオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

エンジンオイルの等級

エンジンオイル (ガソリンエンジン用)
API 分類: SE 級以上
SAE 分類: 10W-30 番

- エンジンオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでエンジンオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. エンジン側面にあるドレンプラグの下に、古いエンジンオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを工具で外します。古いエンジンオイルが流れ出てきます。(図 4-15)

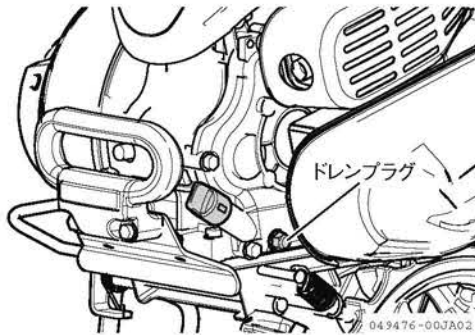


図 4-15 交換のしかた

【参考】

給油口のふたを外すと、エンジンオイルが抜けやすくなります。

3. 古いエンジンオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口からエンジンオイルを給油します。

【参考】

エンジンオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

5. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

走行ミッションオイル

表 4-3 ミッションオイルの規定量

規定量	1.0L
-----	------

■ 点検のしかた

エンジンが水平になるように機械を置きます。検油ボルトを外して、ミッションオイルが垂れてくるか確認してください。

ミッションオイルが垂れてきたら規定量です。

(図 4-16)

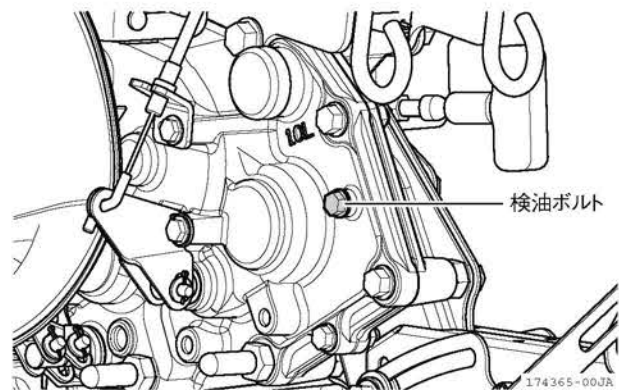


図 4-16 走行ミッションの給油口

【参考】

点検時にオイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

ミッションオイルが不足している場合は、検油ボルトを外してボルト穴からたれてくるまで給油口から補給します。

ミッションオイルの種類

ミッションオイル 90 番

【重要】

ミッションオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでミッションオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. スタンドを立て1 輪管理機を安定させて行います。
2. 爪軸を外し、ミッションケースの下部にあるドレンプラグの下に、古いミッションオイルを受ける容器を置きます。(図 4-17)

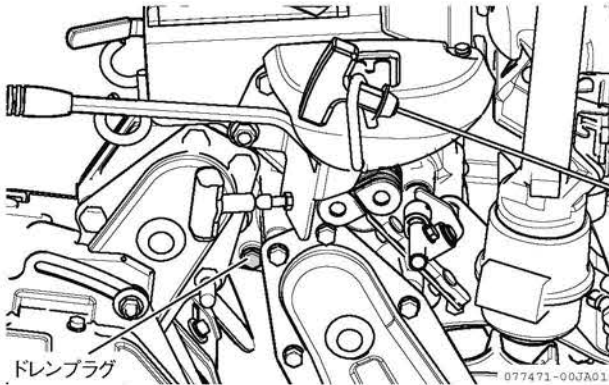


図 4-17 交換のしかた

3. ドレンプラグを工具で外します。
古いミッションオイルが流れ出てきます。

【参考】

- 給油口のふたを外すと、ミッションオイルが抜けやすくなります。
- 走行ミッションオイルが温かいうちに抜くと、容易にミッションオイルを抜くことができます。

4. 古いミッションオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
5. 給油口からミッションオイルを規定量（検油ボルトを外してミッションオイルがたれてくるまで）給油します。
6. 給油口のふたと検油ボルトを元通りに取り付けます。

【参考】

ミッションオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

エアクリーナーの洗浄のしかた

⚠ 警告

エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転直後は掃除をしないでください。パッチン錠などが高温になって、やけどをするおそれがあります。

エアクリーナーを汚れたままで使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に洗浄してください。

1. オイルだまりを固定している、パッチン錠を解除して、オイルだまりを外します。(図 4-18)
2. エレメントを灯油で洗浄します。
3. エレメントをエンジンオイルに浸し、オイルのしずくが落ちない程度に振り切る、またはしぼります。

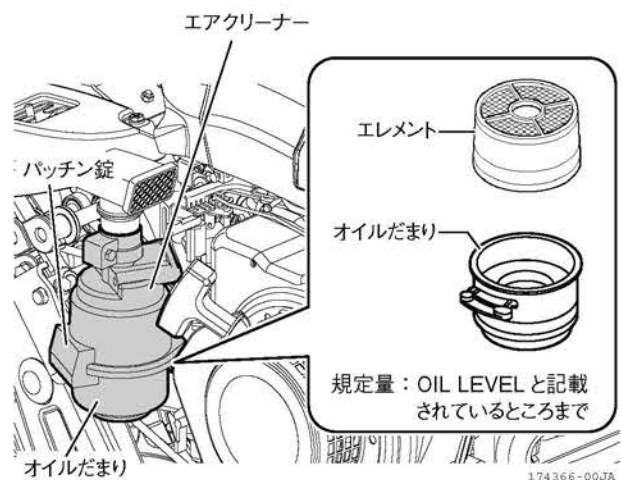


図 4-18 エアクリーナー

4. オイルだまりはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れます。
5. エレメントの上下方向を間違えないようにエアクリーナーへ入れ、オイルだまりを元通りに取り付けます。(図 4-18)

燃料コシ器エレメントの掃除のしかた

警告

- 燃料コシ器の取り付け後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが周りに付着した場合、きれいにふき取り、完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さなごみをこし取るものです。つぎの要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。（図4-19）

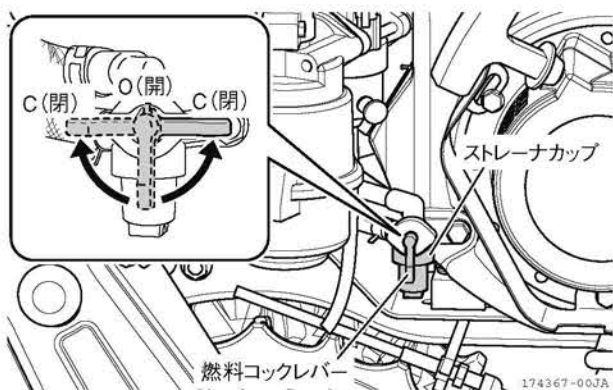


図 4-19 燃料コックレバー

2. 燃料コシ器下部の四角部を工具（10 mm）でゆるめます。（図4-20）
3. 燃料コシ器内の水やごみを取り除き、フィルターネットの目詰まりなどを灯油で掃除します。
4. フィルターネット、パッキン、ストレーナカップの順に元通りに取り付けます。（図4-20）

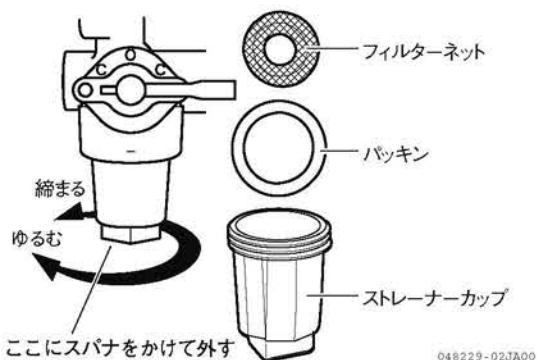


図 4-20 燃料コシ器エレメント

【参考】

フィルターネットは、燃料コシ器の上部に入っています。

主クラッチレバーの点検・調整のしかた

■ 点検のしかた

1. ベルトカバーを外します。

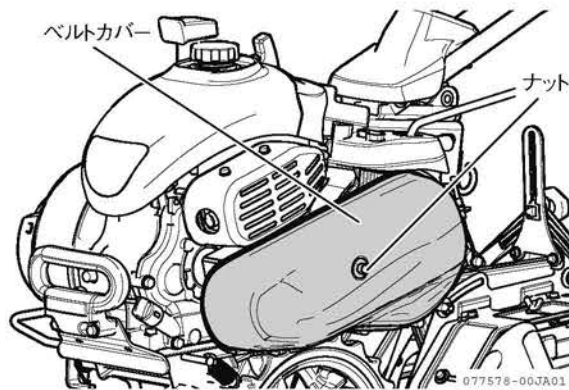


図 4-21 ベルトカバー

2. 走行クラッチベルトに亀裂や破損などがいないことを確認します。亀裂や破損などがある場合は交換します。
3. ロータリー変速レバーをN（中立）にします。
4. 走行変速レバーを「F1」位置にし、主クラッチレバーを「入」位置で1輪管理機が動かない、「切」位置で1輪管理機が手押しできることを確認します。（12ページの「主クラッチ」を参照）
5. 主クラッチレバー「切」位置、走行変速レバーを「N（中立）」位置にして、主軸プーリが手で軽く回り、ベルトと主軸プーリの連れ回りがいないことを確認します。（図4-24）

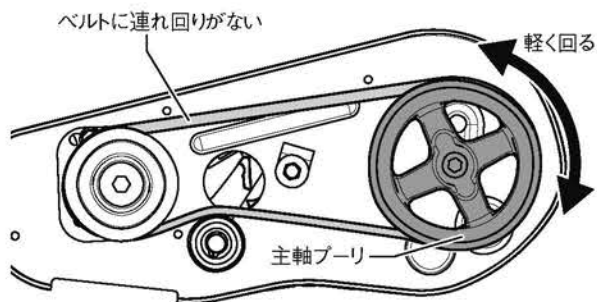


図 4-22 点検のしかた

■調整のしかた

1. ベルトカバーを外します。
2. 主クラッチレバーを「入」位置にします。
3. 主クラッチワイヤーアジャスターで調整します。主クラッチワイヤーアジャスターで調整しても、ベルトの連れ回りが発生する場合はベルトの交換時期です。ベルトを交換してください。(図 4-23)

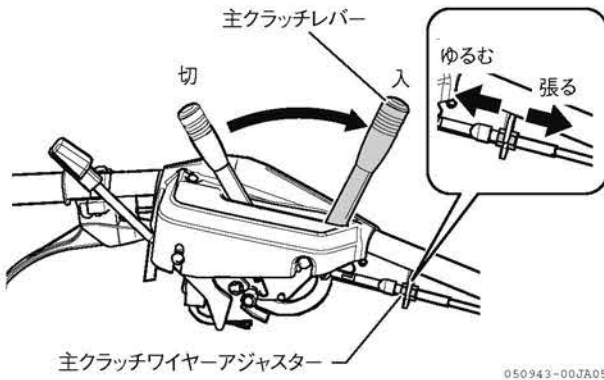


図 4-23 主クラッチワイヤーアジャスター

4. ベルト中央部を約 20 N の力で押したときのたわみが約 10 mm になるように調整します。(図 4-24)

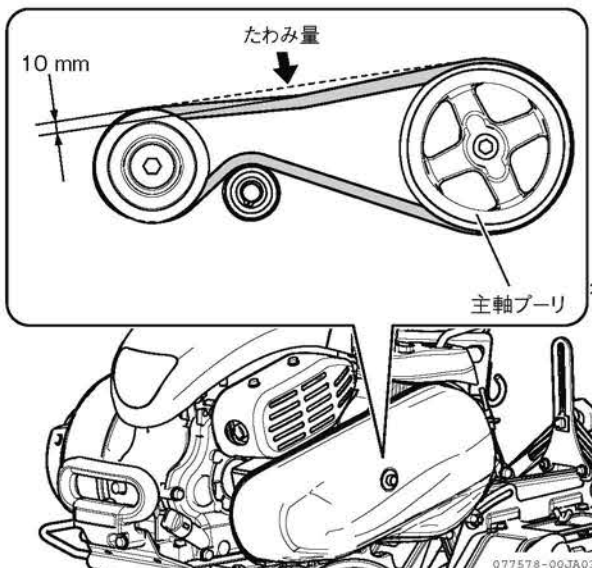


図 4-24 点検のしかた

5. 点検・調整後は、ベルトカバーを元通りに取り付けます。

ロータリークラッチレバーの 点検・調整のしかた

■点検のしかた

ロータリークラッチレバーのワイヤーの遊び量が 1 ~ 3 mm あるか確認します。(図 4-25)

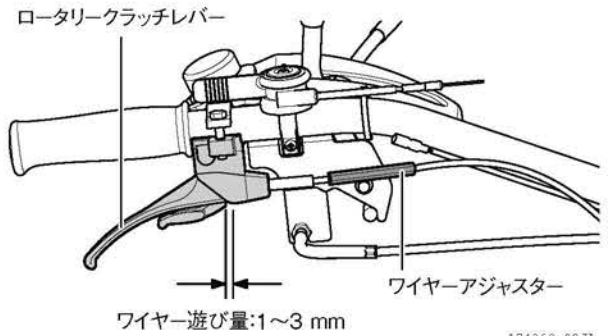


図 4-25 ロータリークラッチレバー

■調整のしかた

1. ロータリークラッチレバーのワイヤーの遊び量が 1 ~ 3 mm になるようにアジャスターのロックナットで調整します。(図 4-26)

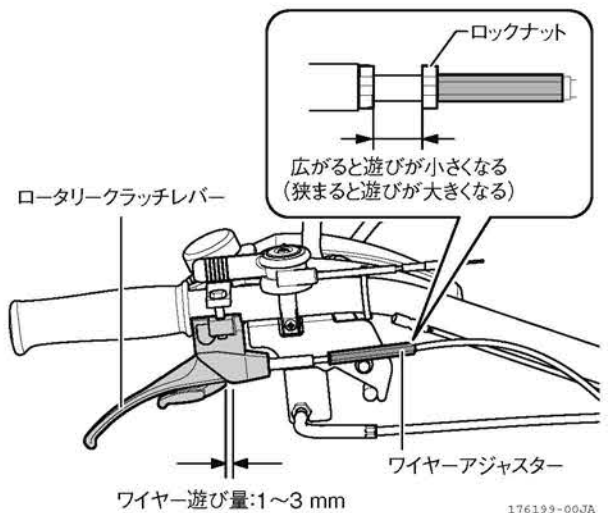


図 4-26 ロータリークラッチレバー、
ワイヤーアジャスター

2. 調整後ロータリークラッチレバーを握り、レバーが「切」位置で保持された状態で、ロータリークラッチが切れていることを確認します。

ハンドル上下レバーの点検・調節のしかた

■ 点検のしかた

ハンドル上下レバーの遊び量が1～3 mm あることを確認します。(図 4-27)

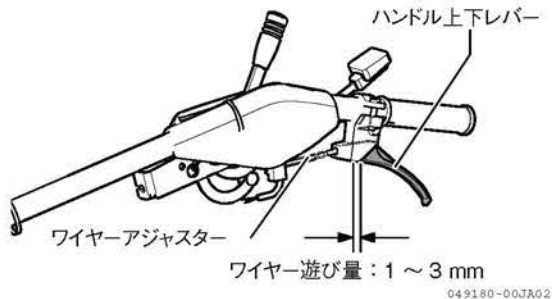


図 4-27 ハンドル上下レバーの遊び量

■ 調整のしかた

ハンドル上下レバーを握らない状態でレバーの遊び量が1～3 mm になるように調整します。(図 4-28)

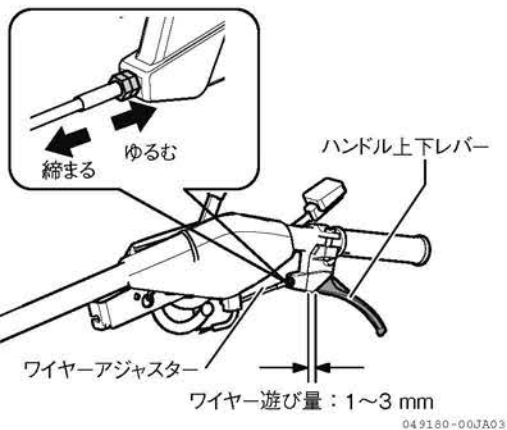


図 4-28 ハンドル上下レバー、ワイヤーアジャスター

【重要】

調整後は、レバーを押してハンドルが上下することを確認してください。

ハンドルの調整のしかた

ハンドルのガタが生じた場合、ハンドルカバーを外し、ハンドル台オサエのナット（4 個）・ハンドル支点部のナットを調整してガタがないようにします。(図 4-29)

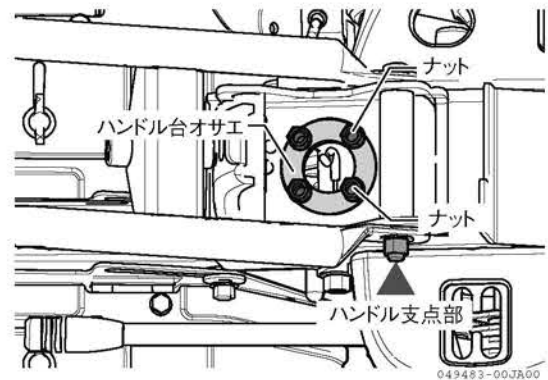


図 4-29 ハンドルの調整のしかた

【重要】

- ハンドル台オサエのナットの締め付けは、ハンドル回転ができる範囲内で調整してください。
- ハンドル支点部のナットの締め付けは、ハンドル上下ができる範囲内で調整してください。

副変速レバーの調整のしかた

1. 副変速レバーを「低」位置にします。
2. 副変速レバーの遊び量が1～2 mmになるように、ワイヤーアジャスターで調整します。

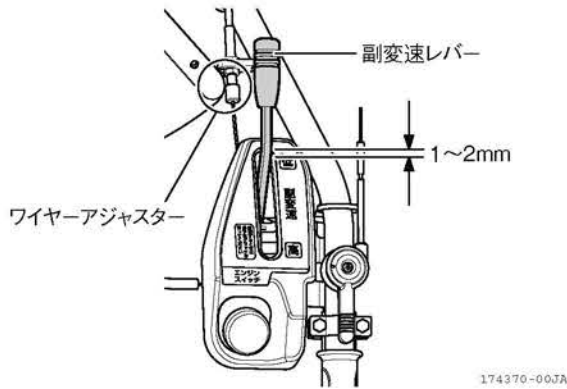


図 4-30 副変速レバーの調整のしかた

クローラの調整のしかた

スプロケット飛びが発生する場合は、クローラの張りを調整します。

1. スタンドを立てます。
2. テンションローラ固定ボルトをゆるめます。
3. テンションボルトのロックナットをゆるめます。
4. テンションボルトを少しずつ締め、クローラのたるみがなくなった位置でロックナットを締めます。
5. テンションローラ固定ボルトを締め付けます。

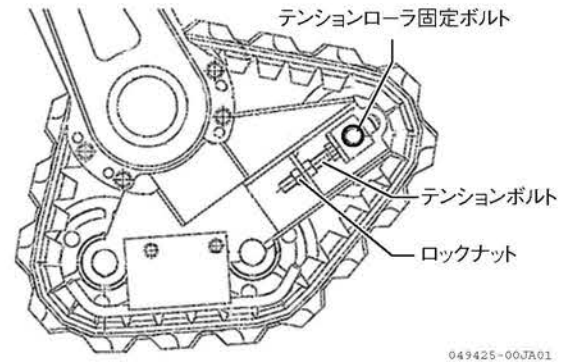


図 4-31 クローラの調整のしかた

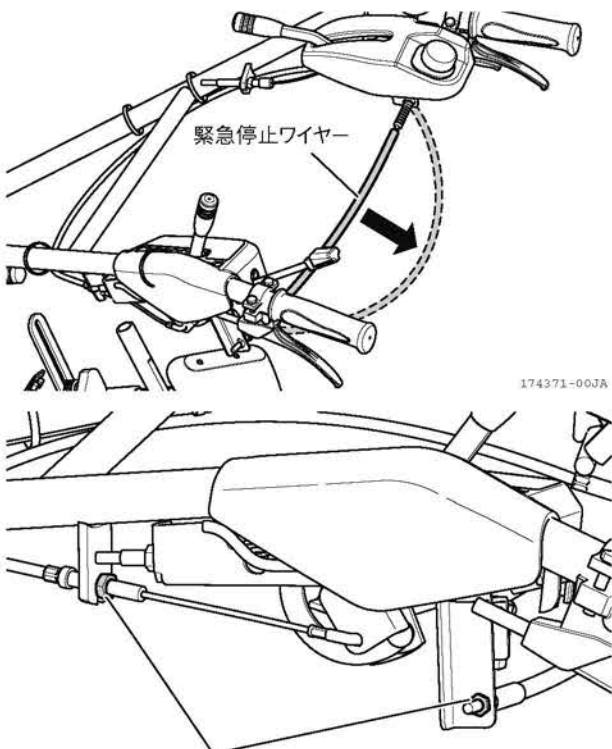
緊急停止ワイヤーの確認・調整のしかた

■ 確認のしかた

緊急停止ワイヤーを操作して、上下前後どの方向に引いても主クラッチが「切」になることを確認します。

■ 調整のしかた

1. 緊急停止ワイヤーを操作して、上下前後どの方向に引いても主クラッチが「切」になるところまでワイヤーを張ります。
2. 調整後は確実に作動することを確認します。



緊急停止ワイヤー調整ボルト 175102-00JA

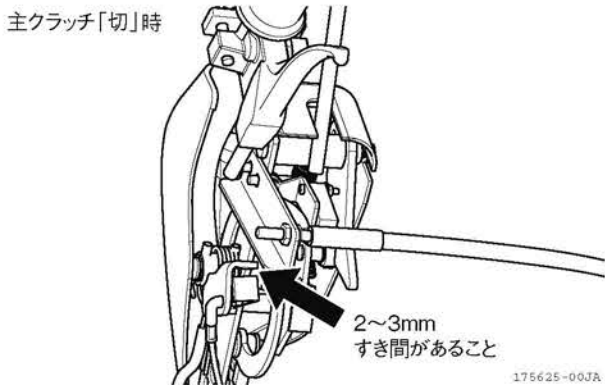


図 4-32

増締めするところ

■ エンジン取付ボルト

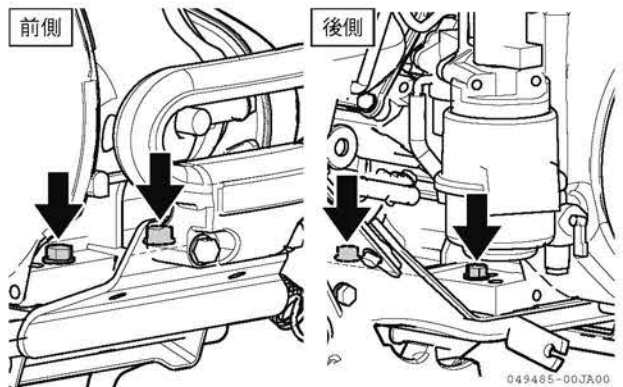


図 4-33 エンジン取付ボルト

■ 耕うん爪取付ボルト

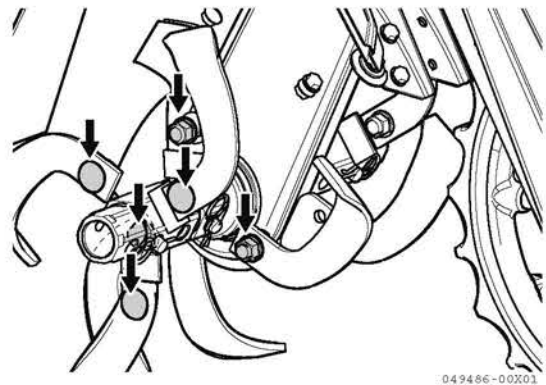


図 4-34 耕うん爪取付ボルト

■ 走行ケース取付ボルト・ナット (4本)
耕うんケース取付ボルト・ナット (4本)

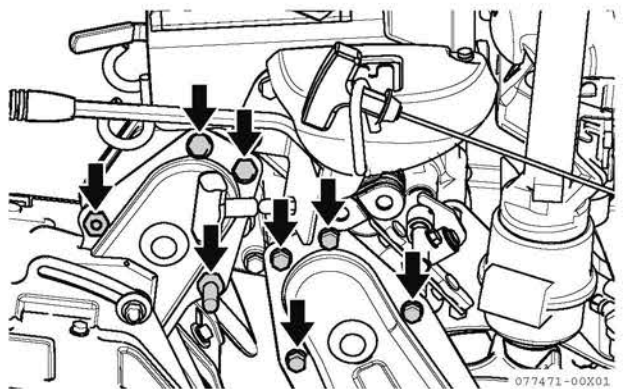


図 4-35 走行ケース取付ボルト・ナット
耕うんケース取付ボルト・ナット

耕うん爪の点検・交換のしかた

⚠ 注意

爪の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用してください。思わぬけがをすることがあります。

効率のよい作業をしていただくために、耕うん爪は、早めに交換してください。

耕うん爪の点検のしかた

■ 点検のしかた

1. 耕うん爪の損傷・曲がり、および摩耗を点検します。
2. 取付部のガタがないか点検します。

■ 耕うん爪の摩耗の見かた

耕うん爪の爪摩耗率が約60%になっていると交換時期です。(図4-36)

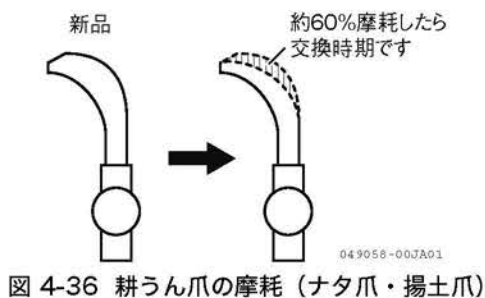


図 4-36 耕うん爪の摩耗 (ナタ爪・揚土爪)

耕うん爪の交換のしかた

⚠ 注意

爪の向きと刃面の方向を間違えないように注意してください。思わぬけがをすることがあります。

表 4-4 爪の取付方向

正転作業 (正転爪)

正しい付けかた	間違った付けかた
<p>回転方向 進行方向</p> <p>174560-00JA</p>	<p>爪の先から土にくい込む付けかたは誤りです。</p> <p>174560-00JA</p>

逆転作業 (逆転爪)

正しい付けかた	間違った付けかた
<p>174560-00JA</p>	<p>174560-00JA</p>

【重要】

耕うん爪を取り付けるときは、爪の種類や本数、爪の向き、回転方向に注意して、正しく取り付けてください。間違って取り付けると、故障の原因になります。

1. 耕うん爪の取付ボルトを外して、爪を交換します。(図4-37)

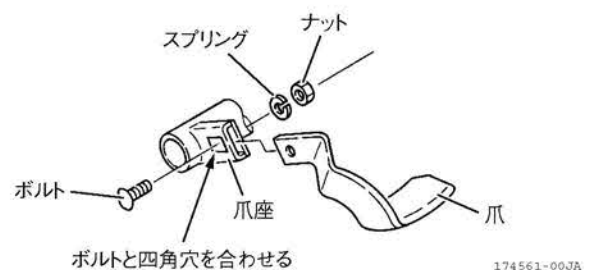


図 4-37 爪交換

2. 交換後は取付ボルト、取付ナットを締めます。

【参考】

爪の本数については、37ページの「爪・爪軸のセットのしかた」を参照してください。

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた

警告

点火プラグの点検・掃除・交換は、運転前に行ってください。運転中、および運転直後は点検・掃除・交換をしないでください。高温部でやけどをするおそれがあります。

電極部がすすで黒ずんでいたり、損耗または破損したりしている点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排ガス不良になります。定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

■点検のしかた

1. リヤカバー（ねじ）を外します。（図4-38）

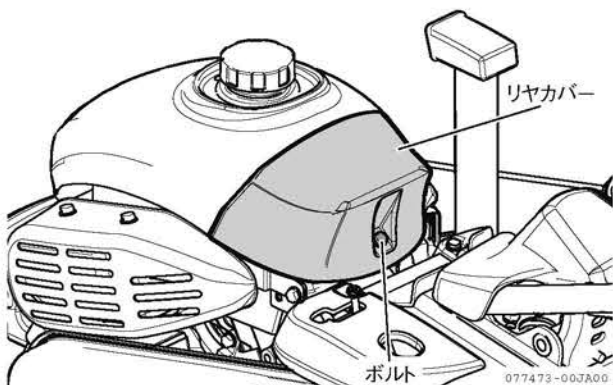


図4-38 リヤカバー

2. プラグコードを外します。（図4-39）

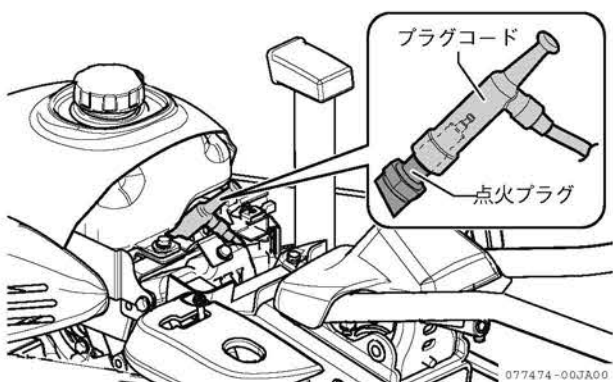


図4-39 点火プラグ・プラグコード

3. 付属のプラグレンチを使用して点火プラグをエンジンから外します。プラグレンチはお手持ちのドライバーなどと合わせてご使用ください。（図4-40）
4. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。

5. 火花ギャップ（電極すき間）を0.7 mmに調整します。（図4-41）
6. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込みます。
7. リヤカバーを元通りに取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。（図4-40）

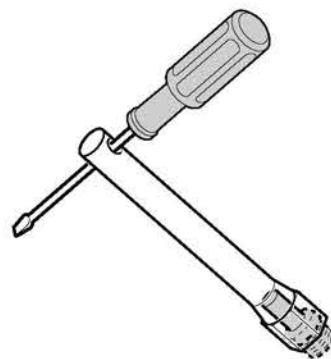
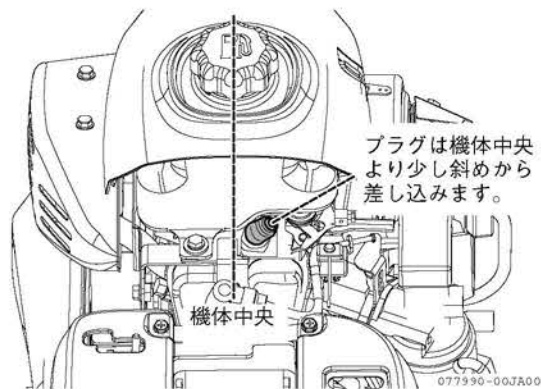


図4-40 プラグレンチとドライバー

■掃除のしかた

電極部をブラシなどで掃除します。

■ 交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。(図 4-39、図 4-41)

表 4-5 点火プラグ

標準点火プラグ	NGK 製 (BP6HS)
E 仕様点火プラグ	NGK 製 (BPR6HS)

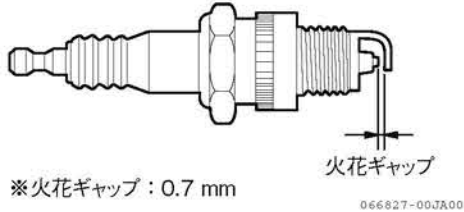


図 4-41 火花ギャップ

燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

⚠ 注意

ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。守らないと、燃料が漏れて火災ややけどを負うおそれがあります。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。

燃料パイプや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAなどで修理してください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

バッテリーの長期保管時の手入れ (E仕様)

- ・ 60℃以下の高温にならない場所に保管してください。
- ・ 屋内で湿気が少なく換気のよい場所に保管してください。
- ・ 長期保管の前は十分な運転により充電を行ってください。

バッテリーの点検 (E仕様)

警告

- バッテリーカバーを外して使用しないでください。
- バッテリーを火中に投下したり、火気に近づけたり、加熱したり、また高温状態で放置したりすると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーを分解・改造すると発熱、発火、破裂の原因となります。
- バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されます。指定以外の方法で充電すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーはエンジン始動専用です。指定以外の用途に使用すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーに強い衝撃を与えないでください。バッテリーに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には使用をやめてください。
- バッテリーコードを強く引っ張らないでください。
- バッテリーを外部充電しないでください。
- バッテリーから液漏れしたり、異臭がしたりするときにはただちに火気より遠ざけてください。
- バッテリーを工具等でショートやスパークさせないでください。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

バッテリーの仕様

本製品は充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。バッテリーはバッテリーカバー内にあります。

表 4-6 バッテリーの仕様

電池の種類	リチウムイオン電池
定格容量	1.0 Ah
定格電圧	DC12.8 V
使用可能温度	0～60℃
保存温度	0～60℃ (推奨 0～20℃)

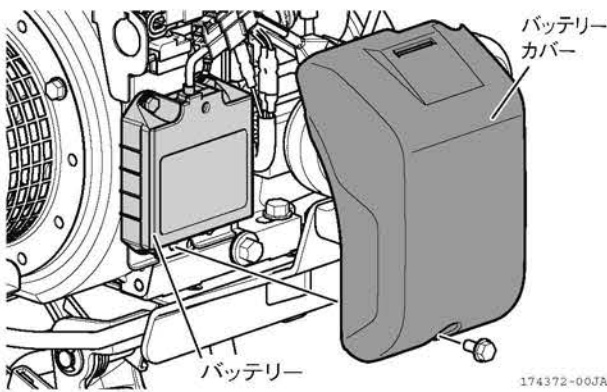


図 4-42 バッテリー

【参考】

初めてお使いになるときは、リコイルスタータでエンジン始動させ十分な運転により充電を行ってください。

バッテリーの充電方法

バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されません。充電が切れた場合は下記手順で充電します。

1. リコイルスタータでエンジンを始動します。
(21 ページ参照)
2. アクセルレバー「高」位置で充電できます。

表 4-7 充電時間 (新品時での目安)

満充電	約 50 分
始動 1 回分	約 1 分

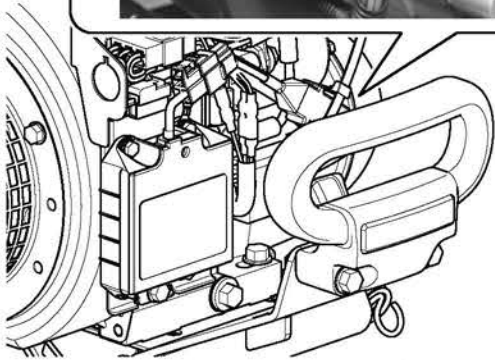
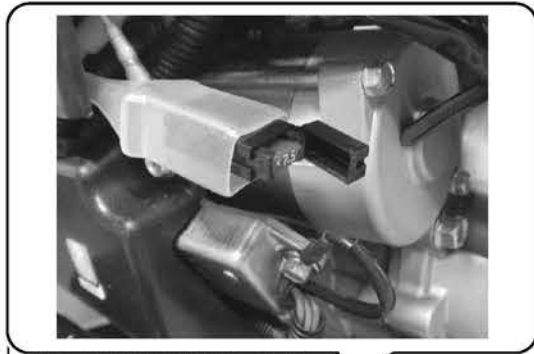
【重要】

- セルモータを 5 秒間回してもエンジンが始動しないときは、10 秒以上時間を空けてから再始動してください。
- セルモータを 5 秒以上回し続けたり、短い休止時間で断続的にセルモータを回したりすると、バッテリーが発熱して内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- 保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。その際は、リコイルスタータで始動してください。

ヒューズの交換

ワイヤーハーネス部のヒューズが切れている場合は交換してください。

ヒューズは、ビニールカバーの中にあるヒューズホルダーに入っています。(ヒューズホルダーは結束バンドで固定しています)



174373-00X

図 4-43 ヒューズ

表 4-8 規定ヒューズ

品番	198535-52160
品名	ヒューズ (7.5 A)

【重要】

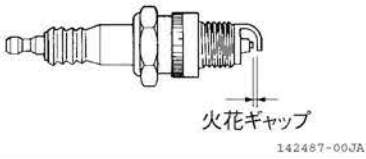
ヒューズを交換してもすぐに切れる場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。

バッテリーの寿命と交換

- ・ 十分な運転による充電を行っても始動回数が少なくなった場合は寿命です。(バッテリーの寿命は使用・保管などの状態により変化します)
- ・ 寿命、もしくは保護機能が作動したバッテリーパックは交換が必要です。ご購入先に相談してください。

不調診断のしかた

■ エンジンが始動しない場合

確認箇所	処 置	参照ページ
燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	47
エンジンの始動手順が間違っていないですか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	21
燃料コックレバーが「C」(閉)位置になっていませんか。	燃料コックレバーを「O」(開)位置にしてください。	21
燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、燃料コシ器を外して、水抜きをしてください。	52
ご購入後 1 カ月以上経過したガソリンを使用していませんか。	燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	47
点火プラグが悪くなっていませんか。 ・ E 仕様以外：NGK 製 (BP6HS) ・ E 仕様：NGK 製 (BPR6HS)	点火プラグを外して、かわいた布でよく乾燥させてください。 点火プラグの火花ギャップを調節してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。	58
		
各リード線が外れていませんか。	コネクタ、リード線の接続を点検してください。	—
(E 仕様のみ) セルモータが回りますか。	リコイルスタータでエンジン始動しバッテリーを充電してください。	61
	充電してもセルモータが回らない場合はバッテリーを交換してください。	62
	ヒューズが切れていれば、交換してください。	62

■ 各部に振動が多い場合

確認箇所	処 置	参照ページ
エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルト、およびエンジンフレーム取付ボルトを強く、締め直してください。	56
ハンドルが振れるのではありませんか。	ハンドル台押さえのナット、ハンドル支点部のナットの締め付けを調整してください。	54

■ エンジンの力がない場合

確認箇所	処 置	参照ページ
エアクリナーにごみが詰まっていませんか。	エレメントを外し、きれいに掃除するか交換してください。	51
エンジンオイル量が少なくなっていないですか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	49
ベルトが張りすぎていませんか。	適正な張りに調整してください。	52
エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバー取付位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。エンジン回転が上がらない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。 アクセルワイヤーのセット位置を変えてください。エンジン回転が上がらない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	—
エンジンの圧縮がないではありませんか。	点火プラグを締めてください。それでも改善しない場合は、ピストンリングなどの摩耗も考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	58

■ 主クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない場合

確認箇所	処 置	参照ページ
ベルトが伸びて、スリップしていませんか。	ベルトの張りを確認してください。	52

■ ハンドル逆位置で「前進1」位置にするとロータリーが回らない場合

確認箇所	処 置	参照ページ
ロータリー牽制プレートを解除していますか。	ロータリー牽制プレートの取付位置が2カ所あります。外側の取付位置に変えてください。	16

保管するときは

⚠ 注意

- 1 輪管理機を高いところに保管しないでください。また、ハンドル部を利用して 1 輪管理機を吊り下げての保管もしないでください。落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）は、1 輪管理機が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に格納してください。
- 1 輪管理機にカバーをして保管する場合は、耕うん爪などの突起物でけがをしないように、壁など人が近づかない方向に向けて保管してください。
- エンジンが高温のときは、本体カバーをかけないでください。エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。火災の原因になります。

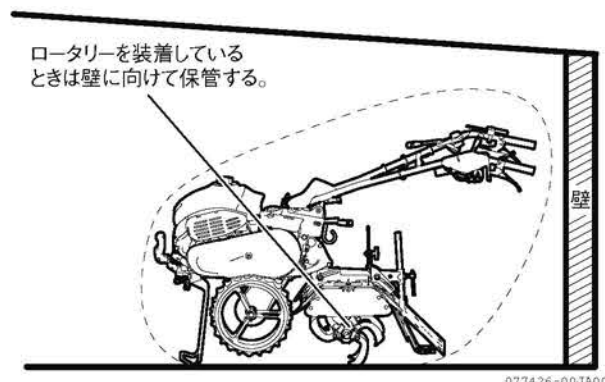


図 5-1 保管方法

1 輪管理機は、直射日光や雨水のあたらない、風通りのよい屋内でスタンド、爪を接地して保管します。雨水などがエアクリーナーやキャブレターにかかると、エンジンの故障などにつながります。

特に長期保管するときは (1 カ月以上)

【重要】

1 カ月以上 1 輪管理機を使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター、燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。抜き取らないと、エンジン不調の原因になります。(48 ページ参照)

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. 点火プラグを外します。
(58 ページの「点火プラグの点検・掃除・交換のしかた」を参照してください。)
2. プラグの取り付けしていた穴からガソリンエンジン用のエンジンオイルを約 2～3 cc 入れます。
3. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。

4. リコイルスタータを軽く引いて、重くなったところ（圧縮位置）で止めます。
5. リヤカバーを外すときの逆の手順で取り付けます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ります。

作業方法は、47 ページの「燃料の点検・補給・排出のしかた」を参照ください。

6章 輸送のしかた

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

ロープなどを使って人力で荷台へ引き上げたり、人力で持ち上げたりしないでください。落下により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

トラックでの運搬時は燃料タンク内のガソリンの量を、積み込み、積み降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは別に用意しておいた、法で定められたタンクに移して運搬してください。

【参考】

トラックへの積み・降ろしのしかたは、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」の記載内容をお読みになり、注意事項を守ってください。

トラックの荷台へロープで固定する場合は、バンパーとロープフックにロープをかけてください。

(図 6-1)

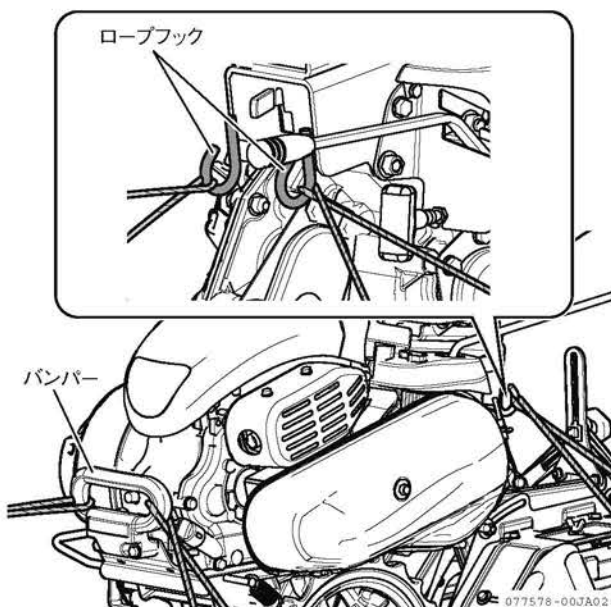


図 6-1 ロープ固定

【重要】

- トラックの荷台へロープで固定する場合は、スタンド、爪を接地状態にして、ロープをかけてください。
- 輸送時は、燃料コックレバーを「C (閉)」の位置にしてください。
エンジンの故障の原因になります。

7章 仕様

主要諸元

名称		ヤンマー 1 輪管理機											
型式名		ヤンマー K0037											
販売型式名		YK451SK					YK651SK						
仕様		S	SE	X	S	SE							
機体寸法	全長 (mm)	1520	1555	1490	1520	1555							
	全幅 (mm)	615											
	全高 (mm)	1050	1050	1110	1050								
機体質量 (重量) (kg)		74	78	74	76	80							
エンジン	型式名	GB131LN	GB131LL	GB131LN	GB181LN	GB181LL							
	種類	空冷 4 サイクル OHV ガソリンエンジン											
	総排気量 (L[cc])	0.129{129}					0.181{181}						
	定格出力/回転速度 (kW[PS]/rpm)	2.0{2.7}/1600					3.0{4.1}/1600						
	最大出力 (kW[PS])	3.0{4.2}					4.6{6.3}						
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン (レギュラーガソリン)											
	燃料タンク容量 (L)	2.3											
	始動方法	リコイルスタータ方式 (i スタート) (E 仕様: セルスタータ式, リコイルスタータ式併用)											
	エアクリーナー	オイルバス											
	エンジンオイル規定量 (L)	0.5					0.55						
走行部	車輪	ゴムラグ											
	車輪サイズ	φ330 (1・2 車輪)											
	車輪外幅	幅狭セット (mm)	95										
		幅広セット (mm)	125										
	主クラッチ方式	ベルトテンション式 (ゆびクラッチ)											
	ハンドル位置	正	逆	正	逆	正	逆	正	逆	正	逆		
	変速段数	段数	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	
	車速 (m/s)	F1	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	
		F2	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	
		F3	0.97	—	0.97	—	0.97	—	0.97	—	0.97	—	
		F4	1.21	—	1.21	—	1.21	—	1.21	—	1.21	—	
		R1	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	
R2		0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49		
車軸形状	形状	丸軸											
	軸径 (mm)	φ20											
PTO 回転速度	正転 (rpm)	232/511											
	逆転 (rpm)	232/511											
ロータリー	駆動方式	センタードライブ (チェーン駆動)											
	爪回転外径 (mm)	φ300					φ340		φ300				
	耕うん幅 (mm)	170 ~ 355 ^{※1}					300		170 ~ 355 ^{※1}				
	変速段数	正転 2・逆転 2											

※1 耕うん幅は段階的に調整します。

※ この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

ヤンマー 1 輪管理機															
ヤンマー K0037							ヤンマー K0038								
YK651SK															
VS	X	XNJ	NR	AS	CS	CX									
1520	1490			1520			1485								
600	615														
1110	1110			1050			1045	1110							
77	76	71	58	73	83										
GB181LN															
空冷 4 サイクル OHV ガソリンエンジン															
0.181{181}															
3.0{4.1}/1600															
4.6{6.3}															
自動車用無鉛ガソリン (レギュラーガソリン)															
2.3															
リコイルスタータ方式 (i スタート)															
オイルバス															
0.55															
ゴムラグ							クローラ								
φ330 (1・2 車輪)				φ330 (1 車輪)				クローラ 110 (幅) ×17 【リンク ×60 (ピッチ)】							
95				90				110							
125															
ベルトテンション式 (ゆびクラッチ)															
正	逆	正	逆	正	逆	正	逆	正	逆	正	逆	正	逆		
F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2	F4・R2	F2・R2		
0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.33	0.33	0.33	0.33		
0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.41	0.41	0.41	0.41		
0.97	—	0.97	—	0.97	—	0.97	—	0.97	—	0.81	—	0.81	—		
1.21	—	1.21	—	1.21	—	1.21	—	1.21	—	1.02	—	1.02	—		
0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	0.33	0.33	0.33	0.33		
0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	0.41	0.41	0.41	0.41		
丸軸															
φ20							φ22								
232/511				—				232/511							
232/511				—				232/511							
センタードライブ (チェーン駆動)															
φ300		φ340		—		—		φ300				φ340			
170 ~ 355※1		300		—		—		170 ~ 355※1				300			
正転 2・逆転 2															

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。この1輪管理機に使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

1 輪管理機の廃棄

1輪管理機を廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店またはJA、もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

廃油の処理

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。

廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご相談ください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店またはJAへお渡してください。資源としてリサイクルされます。

リチウムイオンバッテリーの処理 (E仕様)

リチウムイオンバッテリーは回収、再資源化が義務付けられています。

バッテリーパックを家庭ごみとして処分しないでください。

バッテリーの処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご相談ください。

9章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

1 輪管理機の調子が悪いときは、63 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店または JA までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ・ 販売型式名と製造番号
- ・ エンジンの場合、エンジンの番号
- ・ ご使用状況は？
(車速やどんな作業をしていたときに)
- ・ どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- ・ 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。

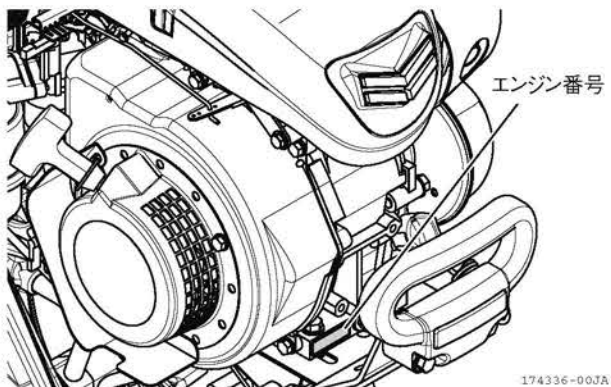
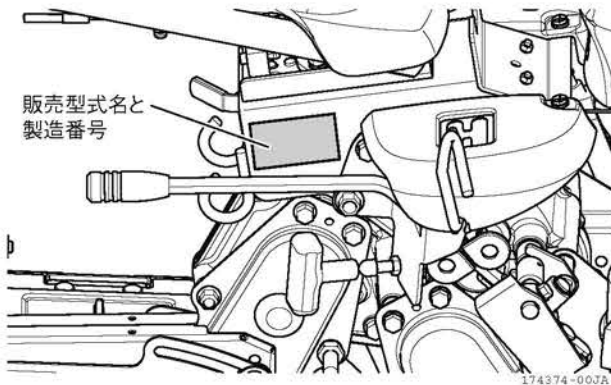


図 9-1

補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



図 9-2 純正部品・純正オイル

改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

あ	
アクセルレバー.....	12
い	
インテークキャップ.....	18
え	
エアクリーナー.....	18, 51
エレメント.....	52
エンジンオイル.....	49
エンジンスイッチ.....	13
エンジン番号.....	1
延長シュノーケル.....	18
き	
キースイッチ.....	13
機体銘板.....	1
緊急停止ワイヤー.....	12
け	
検油ゲージ.....	49
検油口.....	50
こ	
耕うん爪.....	57
し	
主クラッチ.....	12
主クラッチレバー.....	12
す	
スイング調整ねじ.....	32
スタンド操作ノブ.....	16
そ	
走行変速レバー.....	14
ち	
チョークレバー.....	17
つ	
爪.....	37
て	
点火プラグ.....	58
と	
ドレンプラグ.....	50, 51
ドレンホース.....	18, 48
ね	
燃料キャップ.....	47
燃料コシ器.....	48, 52
燃料コックレバー.....	18, 21

は	
ハンドル左右回動レバー.....	17
ハンドル上下レバー.....	14
バンパー.....	66
ひ	
火花ギャップ.....	58
ふ	
副変速レバー.....	15
へ	
ベルトカバー.....	52
み	
ミッションオイル.....	50
ゆ	
ゆびクラッチレバー.....	12
り	
リコイルスタータ.....	17, 21
ろ	
ロータリークラッチレバー.....	14
ロータリー変速レバー.....	16
ロープフック.....	66
わ	
ワンタッチキャブドレン.....	18, 48

11章 部品リスト (部品早見表)

主要消耗部品


表 11-1 主要消耗部品

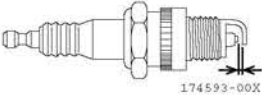
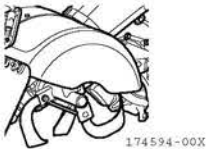
No.	部品名	コード	YK451SK			YK651SK								
			S	SE	X	S	SE	X	XNJ	AS	NR	VS	CS	CX
1	V ベルト LB-35 AG8A	1A2252-13050	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	車軸オイルシール	24421-253808	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-
3		24421-254708	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○
4	耕うん軸オイルシール	1A2880-42140	○	○	-	○	○	-	-	○	○	○	○	-
5		1W0506-09824	-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○
6	ナタツメ L	1A1735-43500	○	○	-	○	○	-	-	○	-	○	○	-
7	ナタツメ R	1A1735-43510	○	○	-	○	○	-	-	○	-	○	○	-
8	ヘンシンナタツメ L	1A2240-43520	○	○	-	○	○	-	-	○	-	○	○	-
9	ヘンシンナタツメ R	1A2240-43530	○	○	-	○	○	-	-	○	-	○	○	-
10	ツメ (ナタ 8RL)	1A2881-43500	-	-	○	-	-	○	○	-	○	-	-	○
11	ツメ (ナタ 8R)	1A2881-43510	-	-	○	-	-	○	○	-	○	-	-	○
12	ツメ (ヘンシンナタ 8SL)	1A2881-43520	-	-	○	-	-	○	○	-	○	-	-	○
	ツメ (ヘンシンナタ 8SR)	1A2881-43530	-	-	○	-	-	○	○	-	○	-	-	○
13	アクセルワイヤー	1A2780-55520	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	ハンドル上下ワイヤー	1A2252-54602	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	副変速ワイヤー	1A2960-55600	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	主クラッチワイヤー	1A2252-55700	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	ロータリークラッチワイヤー	1A2880-56150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	緊急停止ワイヤー	1A2960-55770	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○
19	スタンドワイヤー	1A2252-61710	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	点火プラグ NGK 製 (BP6HS)	165002-14620	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○
21	点火プラグ NGK 製 (BPR6HS) ※	1A0058-00020	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
22	ヒューズ (7.5A) ※	198535-52160	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
23	バッテリーパック ※	1A0111-00020	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-

※E仕様のみ

12章 用語解説

本書の中で使われている用語の解説です。

用語	解説	参照ページ
エLEMENT  174562-00X	エアクリーナーの構成部品の1つ。 空気の通り道にあり、吸気からチリやほこりを取り除きます。 エLEMENTで取り除かれたチリやほこりは、オイルだまりに落ちます。 耕うん機を長時間使用すると汚れがたまりますので、定期的に洗浄してください。	51
オイルバス式 エアクリーナー  174563-00X	燃焼するために吸引される空気をきれいにするエアクリーナーの1種。 エアクリーナーの下側にエンジンオイルをため、エアクリーナー内の複雑な吸気 の経路を通る途中で落ちるチリやほこりをエンジンオイルの粘性で吸着沈殿 させます。 長時間使用すると、エンジンオイルの中に沈殿物がたまるので、定期的にエン ジンオイルを交換してください。	18、46 他
キャブレター  174590-00X	エンジンの燃料（ガソリン）を気化する部品のこと。	18、48 他
コネクタ	配線と電気部品をつなぐカプラーのこと。 多くはプラスチック製です。	63
摺動部	たとえば、クラッチレバーやアクセルレバーを操作すると、そのレバーの動き に合わせてクラッチ、エンジンなどが作動します。このレバーと作動部をワイ ヤーなどで接続しています。このワイヤーが「摺動部」です。摺動部の動きが 悪くなると、オペレータの操作が作動部にうまく伝わらず、1輪管理機をうまく 操作できなくなります。	43
ドレン（ホース）  174591-00X キャブドレン  174591-00X ドレンプラグ  174591-00X	長期保管時には燃料を抜き取る必要があります。 燃料を抜く場所がドレンです。 潤滑油などを交換する場合は、潤滑油のドレン部からオイルを抜き取り、ドレ ンプラグ（栓）を取り付けてから新しいオイルを補給します。	18、48、 50、51
培土	作物の根元に土を寄せること。	4
ハンチング	エンジン回転が不安定になること。	22
ピストンリング  174592-00X	エンジンのピストン部に装着されている金属製のリング（輪）です。 ピストンリングはエンジン燃焼室内の気密を保ち、シリンダー内の潤滑など、エン ジンがスムーズに動くために重要な役割を担っています。	64

用語	解説	参照ページ
火花ギャップ(電極すき間) 	ガソリンエンジンの始動には、点火が必要です。この点火を起こす部品を点火プラグと言います。 プラグ先端が電極になっていて、このすき間を火花ギャップと言います。 適切なすき間(火花ギャップ)がないと、火花が飛ばず、エンジンは始動しません。	59
尾ソリ	耕うん深さを調節するときに使用する装置です。	34
ほ場	耕うんする畑のこと。	3
リード線	電気部品をつなぐコード(電気配線)のこと。	63
ロータリー 	耕うん作業をする部分のこと。 耕うん軸、耕うん爪、ロータリーカバーなどで構成されます。	4、12他

お問い合わせ先

お住まいの地域の販売会社へお問い合わせください。

ヤンマーアグリジャパン株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番地9号
梅田ゲートタワー

TEL (06)6376-6345

北海道支社

〒067-0051 北海道江別市工栄町10番地6

TEL (011)381-2300

東北支社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番地1
斎喜センタービル 1F

TEL (022)288-8451

関東甲信越支社

〒300-1161 茨城県稲敷郡阿見町よしわら1丁目19番地1

TEL (029)844-9007

中部近畿支社

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番地9号

TEL (077)582-9300

中四国支社

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地

TEL (086)428-5151

九州支社

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2

TEL (0942)53-0333

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番地12号

TEL (098)898-3111

ヤンマーアグリ株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428番地

お客様相談室
TEL (06)7636-9298

2021年7月1日現在

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたを
すると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマーアグリ株式会社

yanmar.com

0A211-JA0730
2026.01-4
Japanese